



# 第2期佐久穂町人口ビジョン

令和2年1月



第1章	はじめに	3
第2章	人口の現状分析	4
1.	人口の現状分析の概要	4
2.	人口の現状分析の詳細	5
(1)	総人口の推移と推計	5
(2)	自然増減の状況	7
(3)	社会増減の状況	9
(4)	通勤の分析	19
(5)	地区別人口の分析	21
(6)	転入者・転出者に対するアンケート結果の分析	29
第3章	人口の将来展望	34



## 1. 佐久穂町人口ビジョンの目的・背景

平成26年12月27日、政府は、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を策定し、日本の人口の現状とこれから目指すべき将来の方向性を示し、令和元年度まで出生率の上昇と東京圏への一極集中の是正に向けて、各種の施策が実施されてきました。しかしながら、当時より人口減少のスピードは遅くなっているものの、我が国の人口減少は危機的な状況を脱していません。政府は、今後もこの困難な課題に国と地方公共団体の全ての関係者が力を合わせて取り組んでいけるよう新たな施策を盛り込み、令和元年12月20日に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を改訂しました。

本町においても、平成27年度に「佐久穂町人口ビジョン」を作成し、人口減少に歯止めをかけるための各施策を実行してまいりましたが、総人口は当時の推計を上回るペースで減少し続けているなど、依然看過できない状況となっています。本ビジョンは、引き続き人口減少に対応するため、第1期佐久穂町人口ビジョン策定以後の人口の動向を改めて分析し課題を明らかにするとともに、目標人口等今後の人口の展望を示すものであり、本町における総合戦略の企画立案に資することを目的に策定するものです。

## 2. 佐久穂町人口ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、令和元年12月に公表された国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改訂版)」および長野県の「しあわせ信州創造プラン2.0～学びと自治の力で拓く新時代～」に示された将来の方向性や目標人口などを踏まえて策定するものとします。

また、本町における最上位の計画である「第2次佐久穂町総合計画」に示されている政策を踏まえつつ、「まち・ひと・しごと創生」にかかわる政策を中心に取りまとめるものとします。本人口ビジョンに示されている将来の方向性は、別途策定する「第2期佐久穂町コミュニティ創生戦略」における施策検討において参照するものとします。

## 3. 佐久穂町人口ビジョンの対象期間

次世代の佐久穂町を見据えるため、40年後の2060年までの人口推移等を分析します。



### 1. 第1期人口ビジョン策定以後の佐久穂町の人口動向のまとめ

本ページでは2015年の第1期人口ビジョン策定以後の佐久穂町の人口動向を整理します。なお、文中で参照しているデータは対応する図表が掲載されているページ番号を付記しています。また、次ページ以降、本ページで参照されている図表のタイトルには★マークを付しています。

#### ・総人口の推移と推計の分析

総人口は減少を続けており、2019年10月1日時点で10,334人となっており、第1期人口ビジョンを作成した2015年から852人減少しています(p5)。この間、年少人口および生産年齢人口は減少が続き、老年人口も2018年をピークに2019年に減少に転じました(p5)。総人口は2015年以降第1期人口ビジョンで設定した目標人口との乖離が拡大し、当初の推計値を下回って推移しています(p6)。

#### ・自然増減の分析

自然動態は、出生数の減少に歯止めがかからないため、今後も自然減の傾向が継続する見込みです(p7)。合計特殊出生率は低下傾向であり、15～49歳の女性の人口が減少するため、出生数自体の減少傾向は今後一層加速する見込みです(p8)。自然動態を改善するためには、継続して出生率の改善を図るとともに、子育て世代の人口を確保することが必要です。

#### ・社会増減の分析

社会動態は、第1期「佐久穂町コミュニティ創生戦略」の取組みが始まった2015年以降も、転出が転入を大きく上回る状況が続いており、社会減の傾向は緩和されていません(p9)。住民基本台帳をもとに転入元や転出先の分析をすると、特に佐久市との間で転出超過の傾向が顕著になっています(p15)。年代別に転入・転出を見ると、引き続き10代後半から20代にかけての転出の傾向が顕著であり(p16、17)、この層の転入を促進することが必要です。

#### ・地区別人口の分析

地区別の人口の状況をみると、集落の人口の動きに差が見られます。おおむね町中心部の地区への転入が多いものの、世帯当たりの転入超過数をみると、八千穂高原や大日向3区等周辺部の地区においても一定の転入が見られました。一方で、まちの中心部であっても世帯当たりの転出超過数の大きな地区があり、地区ごとに自治区の現状を共有することが必要です(p26、27)。

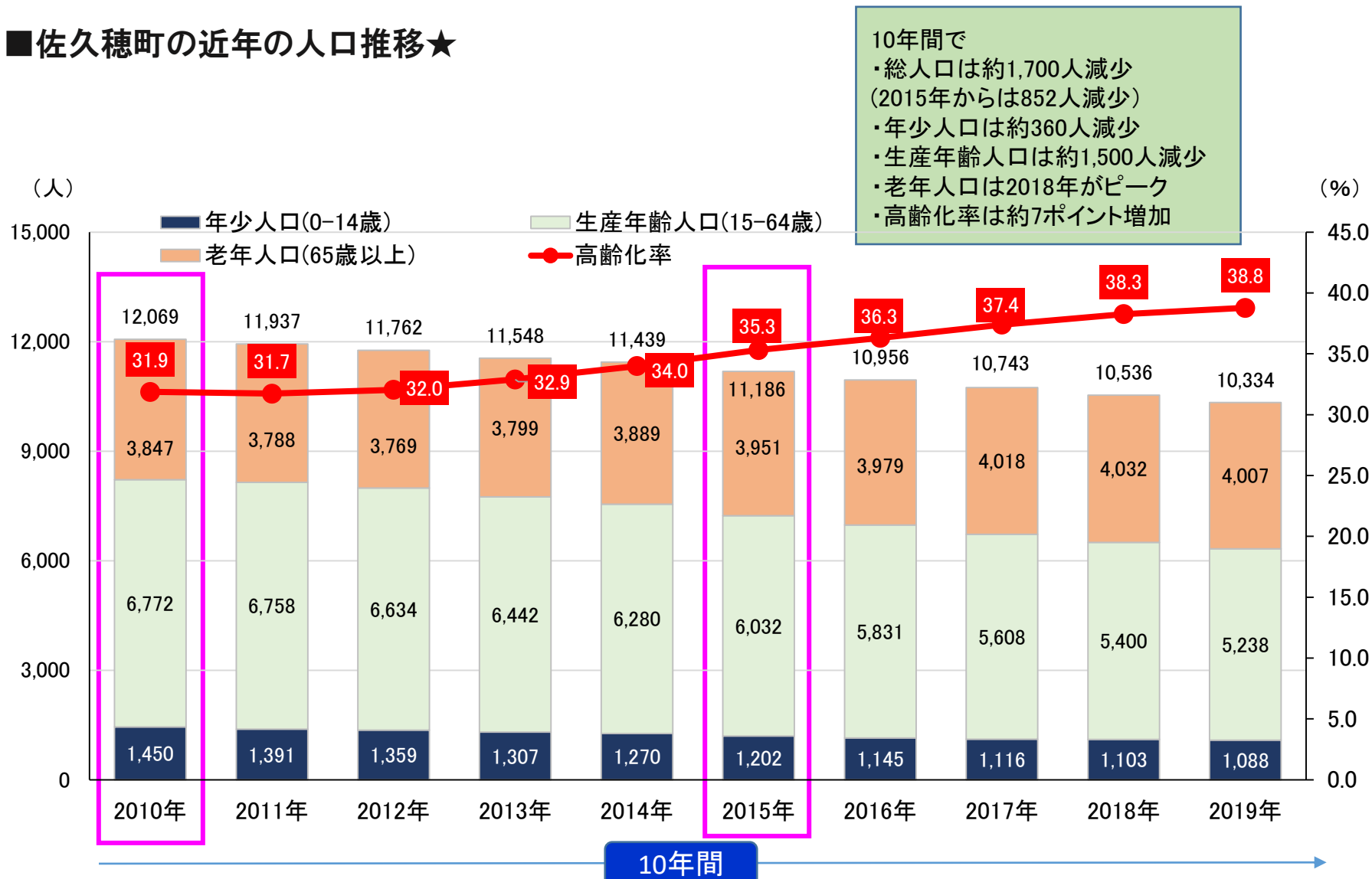
#### ・転入者・転出者に対するアンケート結果の分析

2018年～2019年に転入・転出した人に対するアンケート結果を見ると、転入の理由としては「希望する仕事があった」、転出の理由としては「結婚・同居」が最も多くなっています(p30)。特に30代では転入の理由として「希望する仕事があった」の割合が多くなっています(p31)。また、転出の理由としての「結婚・同居」は県内に転出する人ほど多くなっています(p32)。「結婚・同居」を機に佐久穂町に住める環境、魅力ある雇用環境の整備等が重要と考えられます。



# 1. 佐久穂町の人口分析の詳細 (1) 総人口の推移と推計の分析

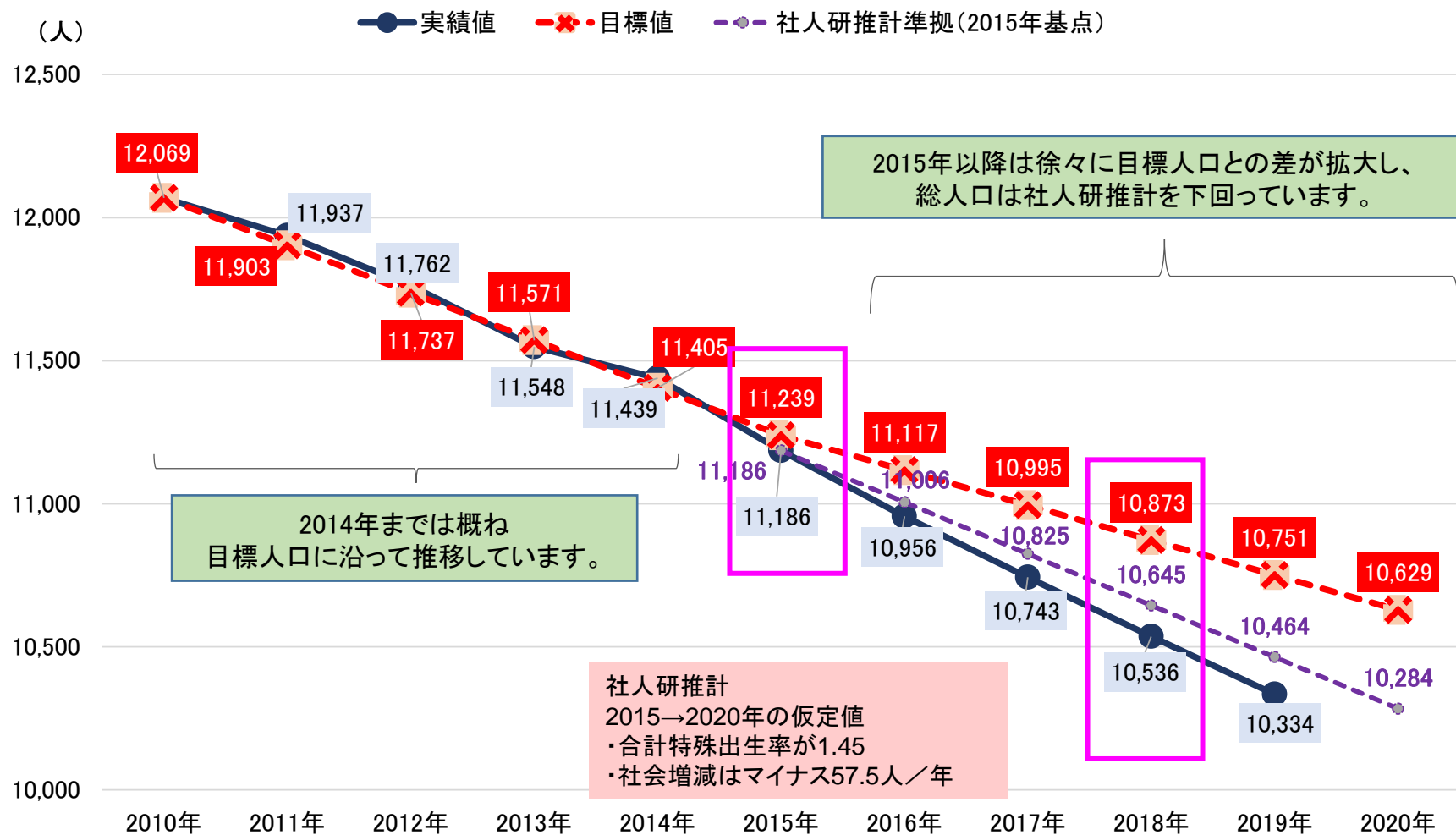
## ■ 佐久穂町の近年の人口推移★



出典：2010年および2015年 総務省「国勢調査」  
 2010年、2015年以外 長野県「毎月人口異動調査」 各年10月1日



## ■佐久穂町の目標人口と実績値★



出典:実績値 2010年、2015年 総務省「国勢調査」

2010年、2015年以外 長野県「毎月人口異動調査」各年10月1日

目標値 2015年、2020年 第1期佐久穂町人口ビジョン創生シナリオにおける人口

2015年、2020年以外 第1期佐久穂町人口ビジョンを元に各年で案分して算出

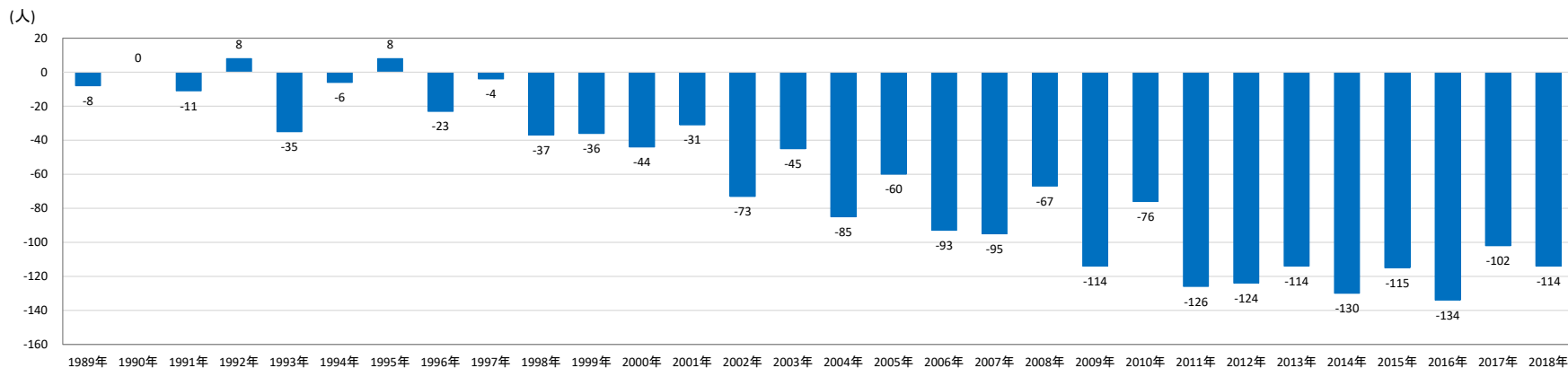
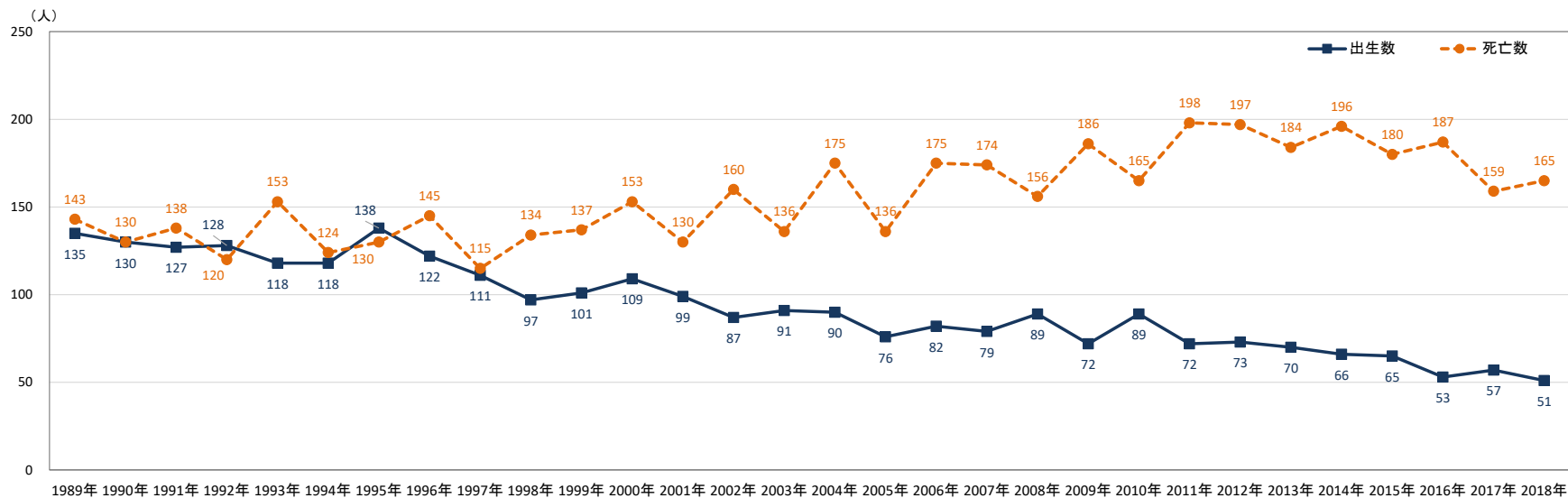
将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

## (2) 自然増減の分析



### ■ 自然増減の推移★

自然増減の様子を見ると、死亡数は2011年をピークに減少傾向に転じているものの、出生数は依然として減少傾向に歯止めがかからないため、自然減の傾向は定常化しています。今後もこの傾向は継続する見込みです。

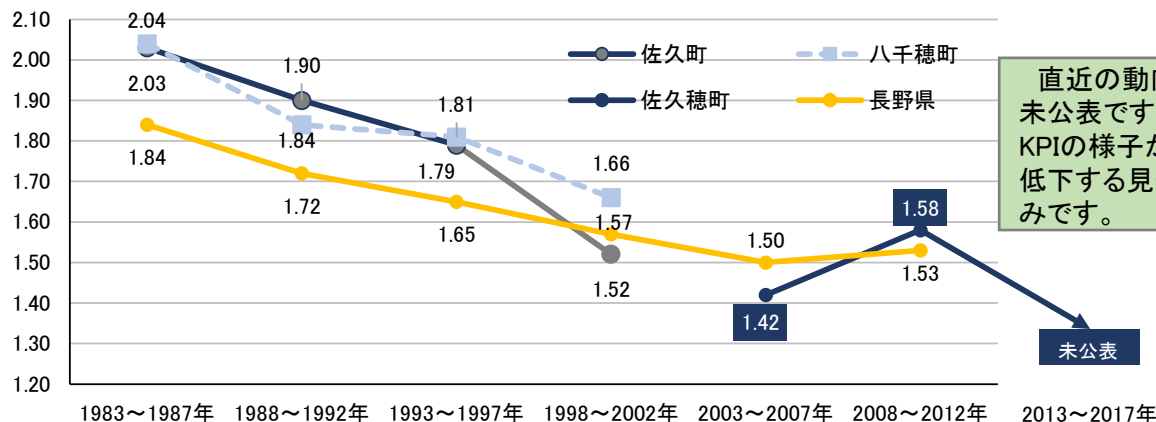


出典：長野県「毎月人口異動調査市町村別異動状況」



## ■合計特殊出生率

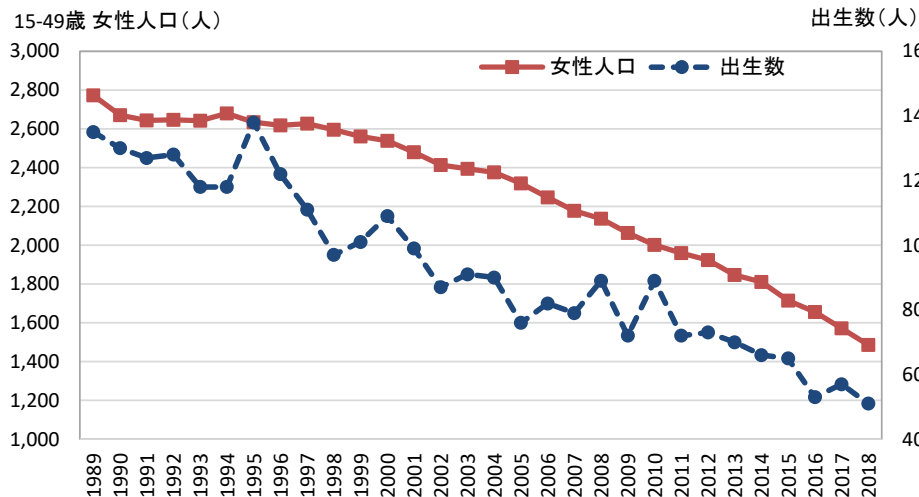
出典：人口動態保健所・市区町村別統計



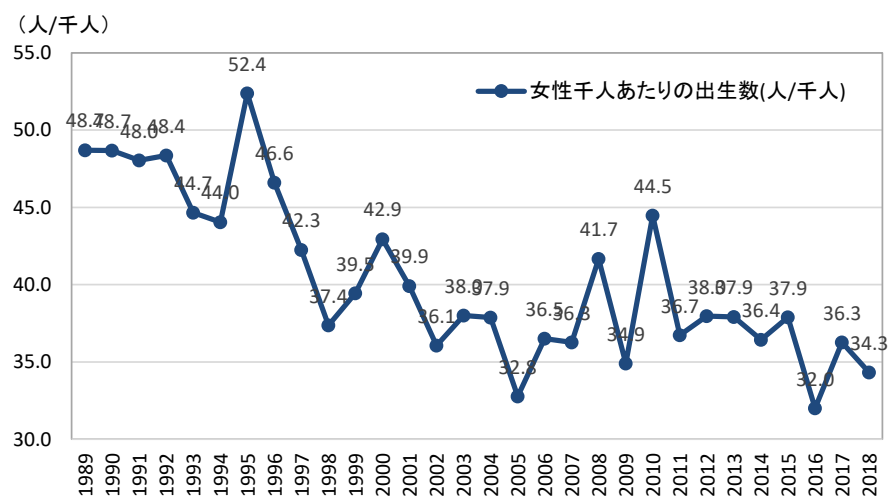
合計特殊出生率は2008~2012年に一時的に回復していますが、近年のKPIの推移をみても低下傾向は継続している見込みです。加えて、今後も町在住の15-49歳女性人口が減少しているため、町全体の出生数は減少が続くと思われます。

直近の動向は未公表ですが、KPIの様子から低下する見込みです。

## ■佐久穂町在住 15-49歳女性人口と出生数★



## ■佐久穂町在住 15-49歳女性千人あたりの年間出生数



出典：女性人口：長野県「毎月人口異動調査結果報告」総務省「国勢調査報告」  
出生数：長野県「毎月人口異動調査市町村別異動状況」

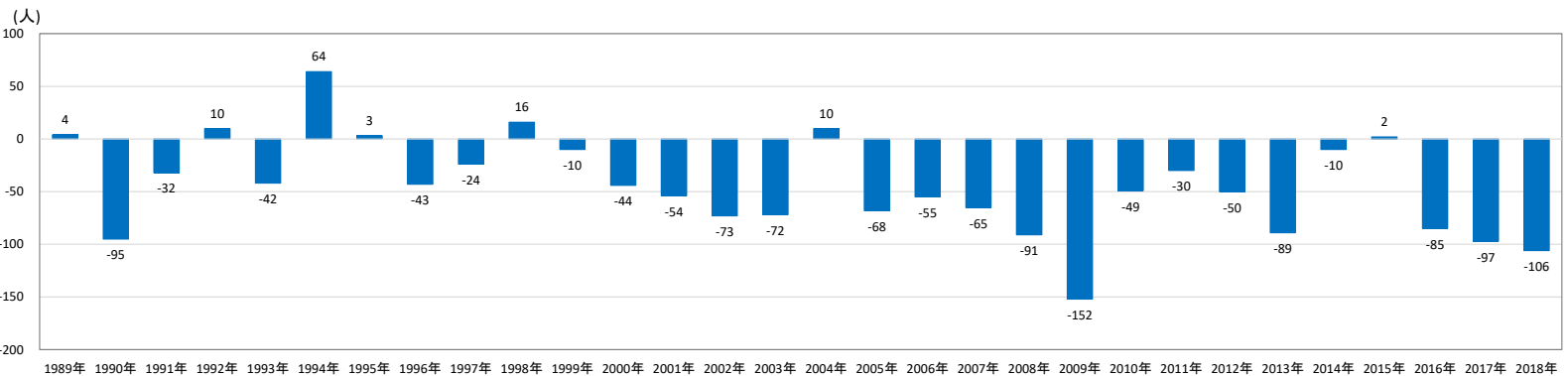
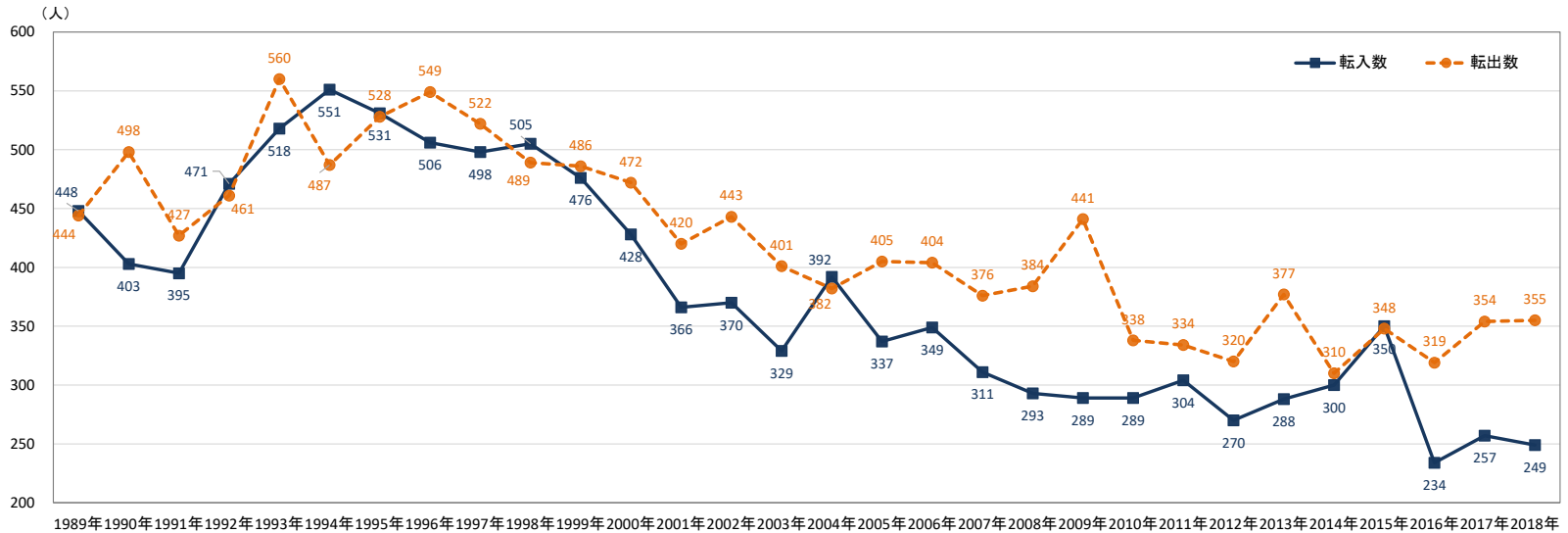


# (3) 社会増減の分析



## ■ 社会増減の推移★

社会増減の様子を見ると、長期的には転入・転出ともに減少傾向です。第1期総合戦略の取組みが始まった2015年以降は、転出数が転入数を大きく上回っており、転出超過となっています。社会増減の改善に向けて一層の取組み・継続的な取組みが求められます。



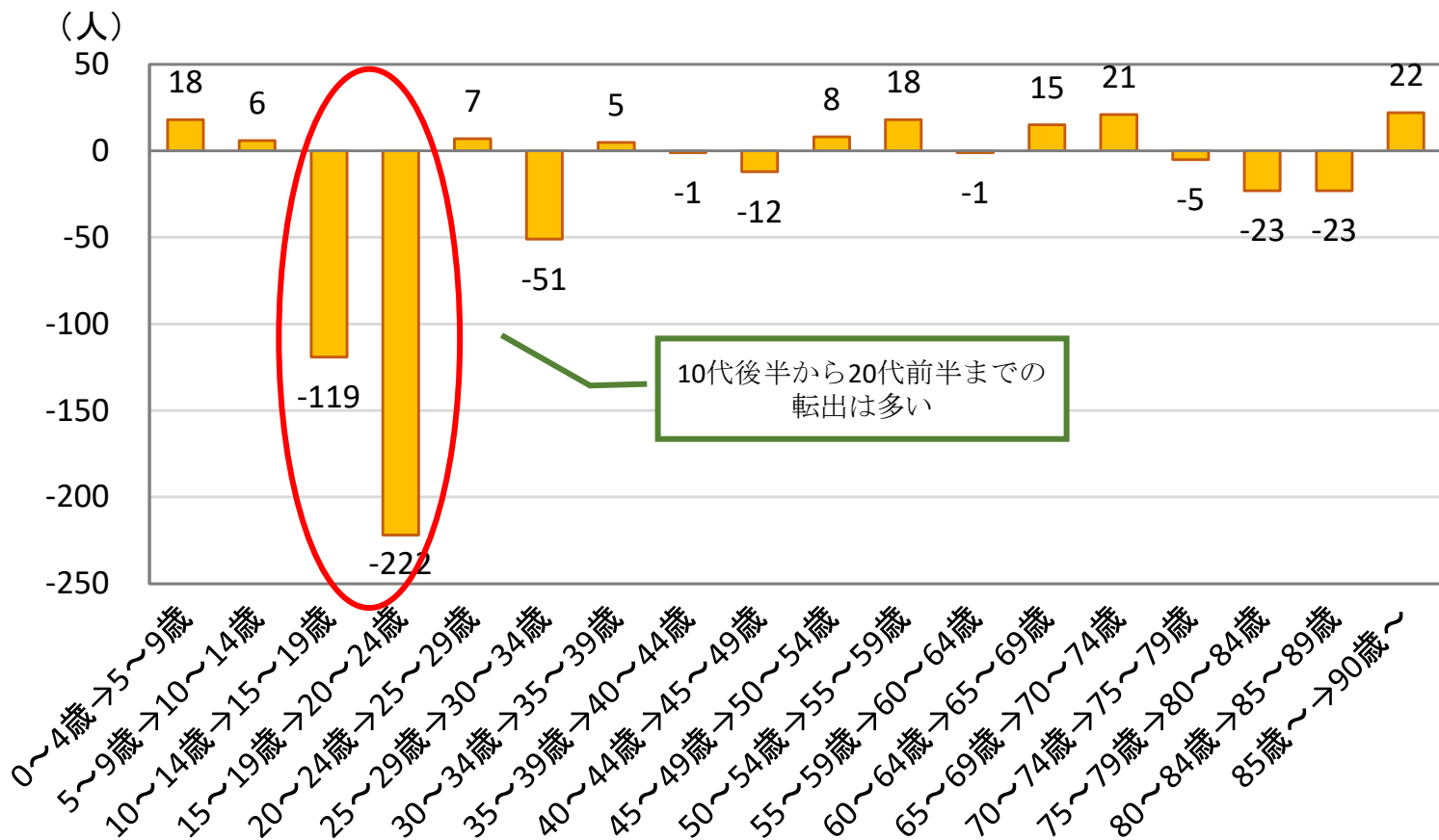
出典：長野県「毎月人口異動調査市町村別異動状況」

注) 合併前は、合併地区からの転出入数が含まれている。 例: 旧佐久町→旧八千穂村 など



## ■年代別純移動※の分析(2010～2015年実数) 【総数】 ※純移動数: 転入数-転出数

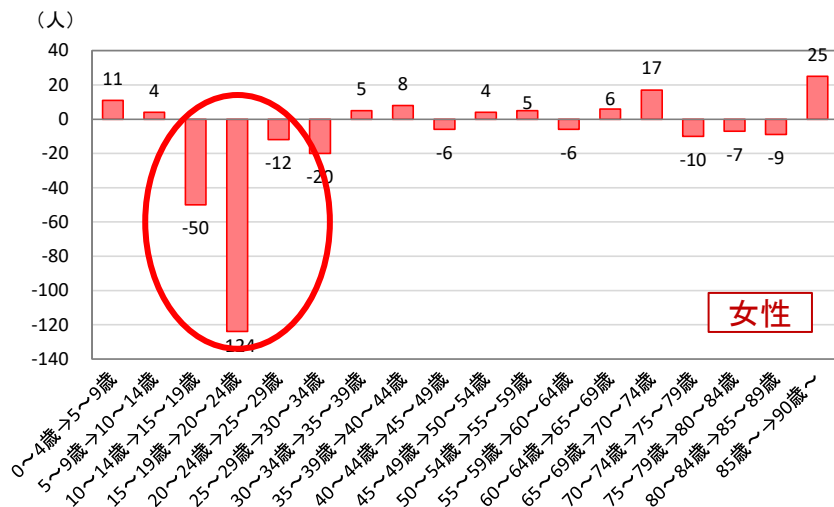
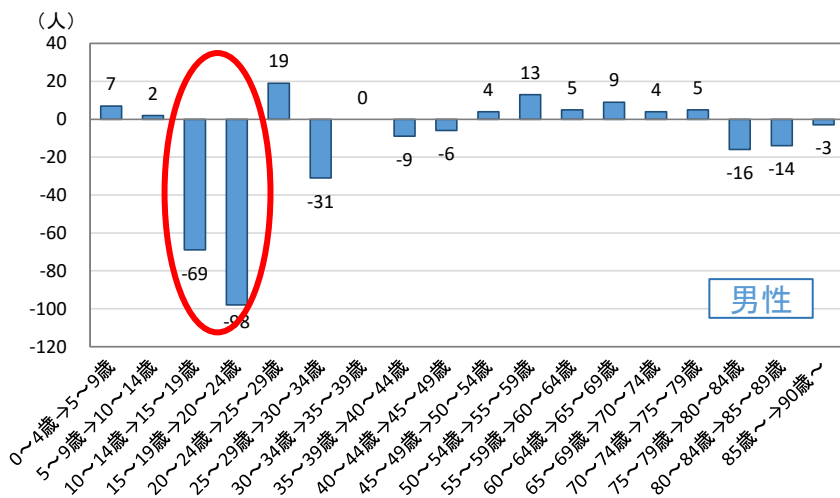
年代別の純移動数を見ると、10代後半から20代前半までの流出が多くなっており、この年代では進学や就職に伴う転出が多いと推測されます。一方で、通常、転出が多くなる未就学(0～4歳→5～9歳)で転入超過となっており、就学に伴う転出が他の自治体と比較して少ないことが考えられます。





## ■年代別純移動の分析(2010～2015年実数)【男女別】

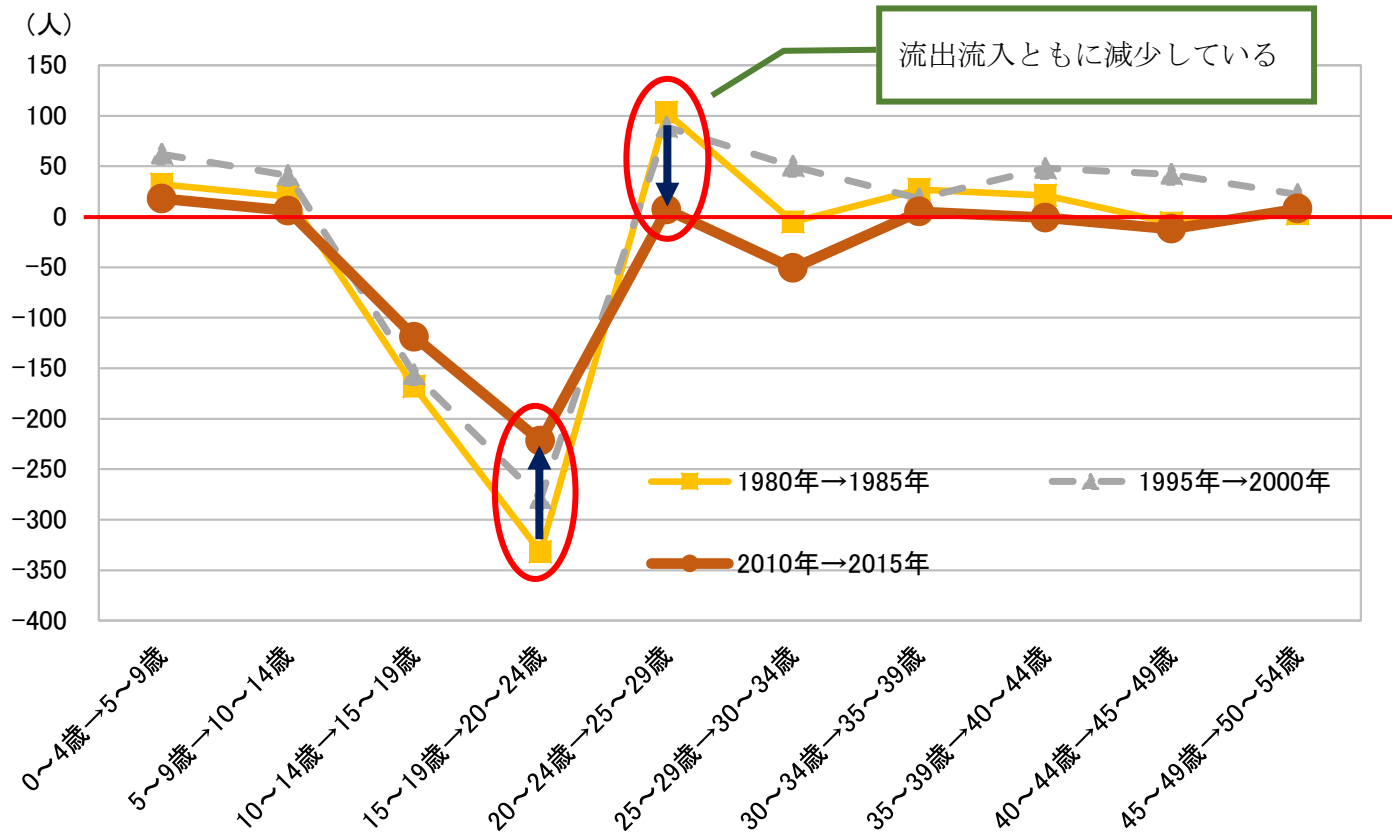
年代別の純移動者数の様子を男女で分けて見ると、男性・女性ともに10代後半から20代前半までの流出が多くなっています。一方で、男性と比較して、女性は20代後半の流出が多くなっています。また、男性は70代後半から80代の流出が多くなっています。



出典:内閣府「RESAS 人口マップ」

## ■年代別社会増減の推移【総数】

年代別の純移動者数の経年変化を見ると、10代後半、20代前半で均衡に向かいつつあります。この世代の人口減少が影響していると考えられます。



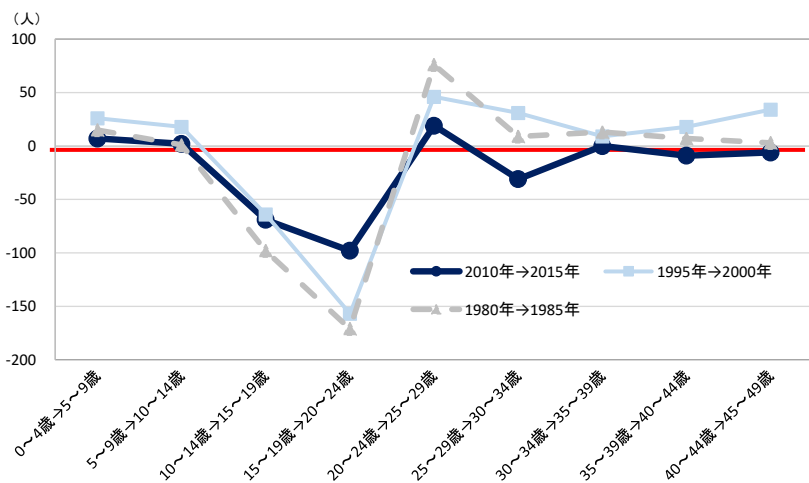
出典：内閣府「RESAS 人口マップ」



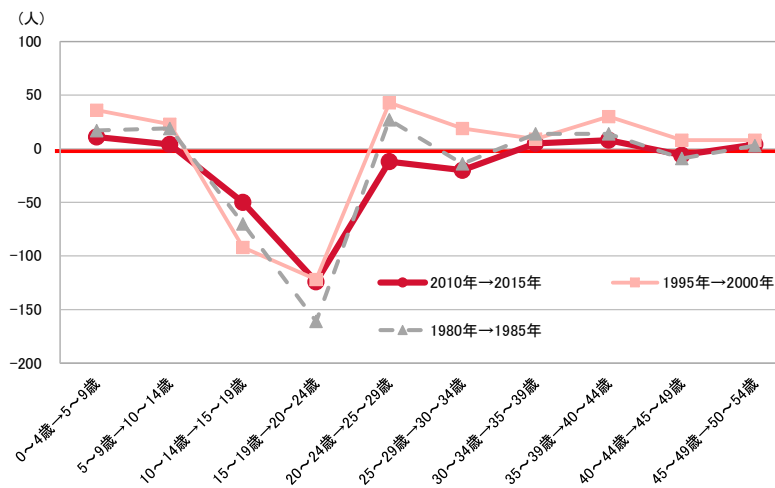
## ■年代別社会増減の長期的推移【男女別】

年代別の純移動者数の経年変化を男女別に見ると、男女ともに20代前半の転入超過幅が縮小しています。10代後半の転出超過は、男性では縮小していますが、女性ではあまり変化が見られず転出超過幅が大きいままとなっています。

### 男性



### 女性

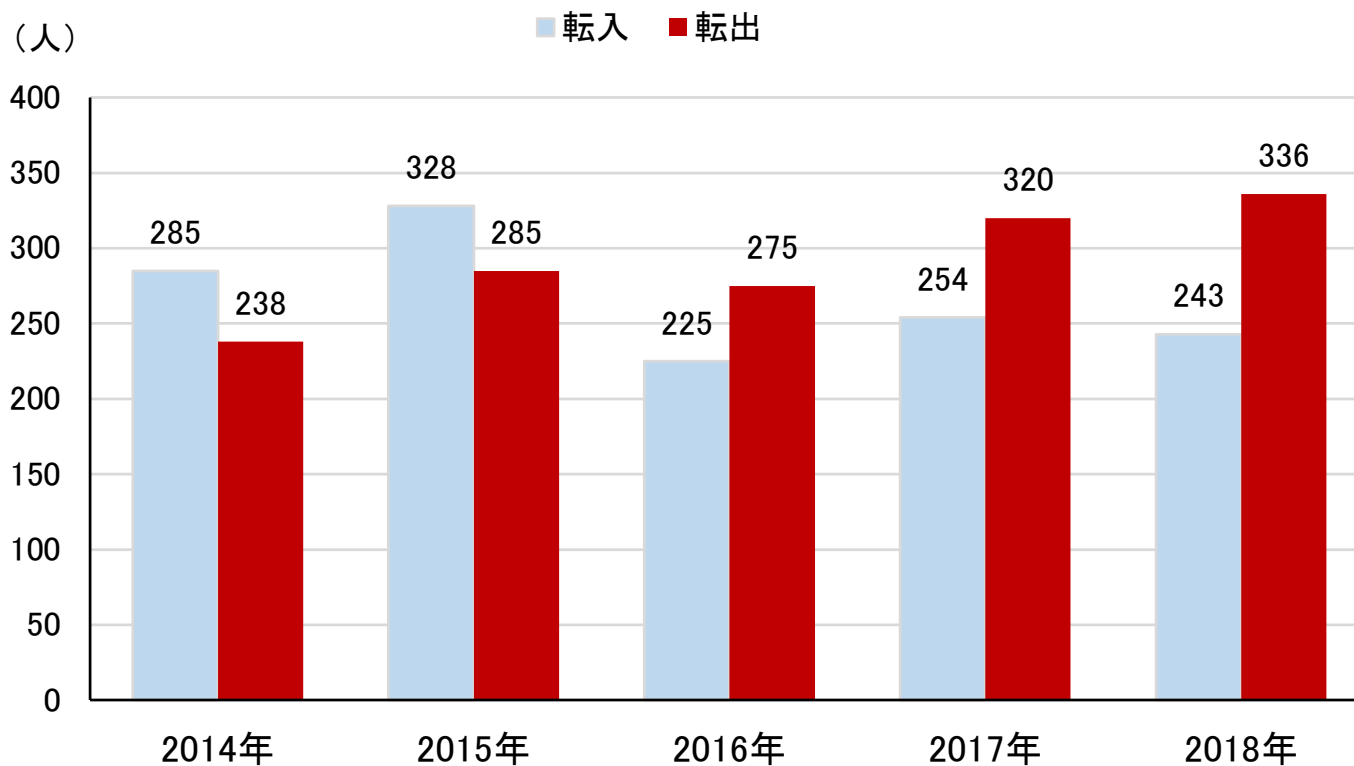


出典：内閣府「RESAS 人口マップ」



## ■転入・転出者数の推移

住民基本台帳では、2014年、2015年は転入超過となっていますが、2016年以降転入者が減少するとともに、転出者が増加しています。

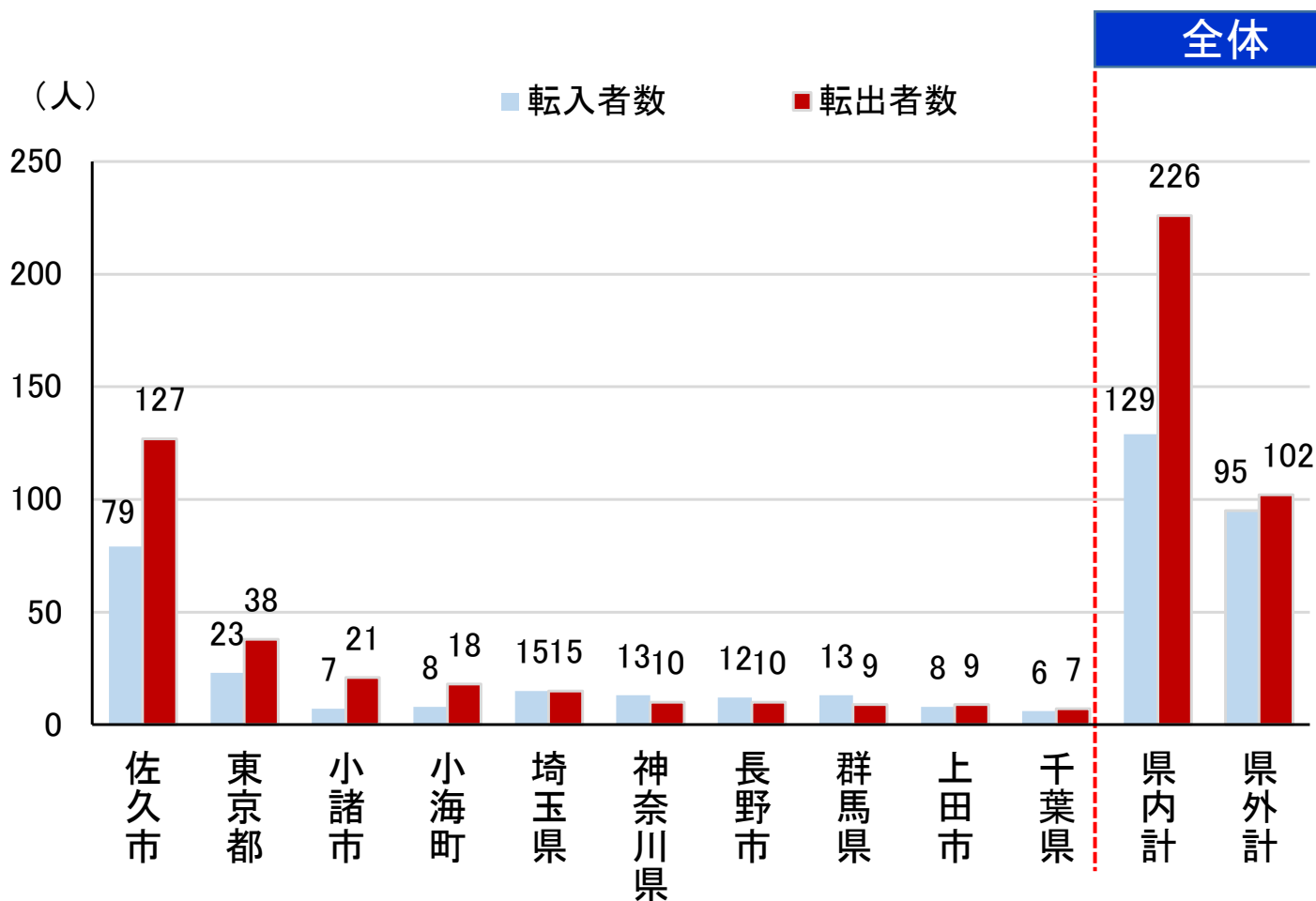


出典: 佐久穂町「住民基本台帳」



## ■転入元・転出先★

異動者数の多い自治体ではすべて転出超過となっています。佐久市との間で異動者数が最も多く、転出超過幅が最も大きくなっています。

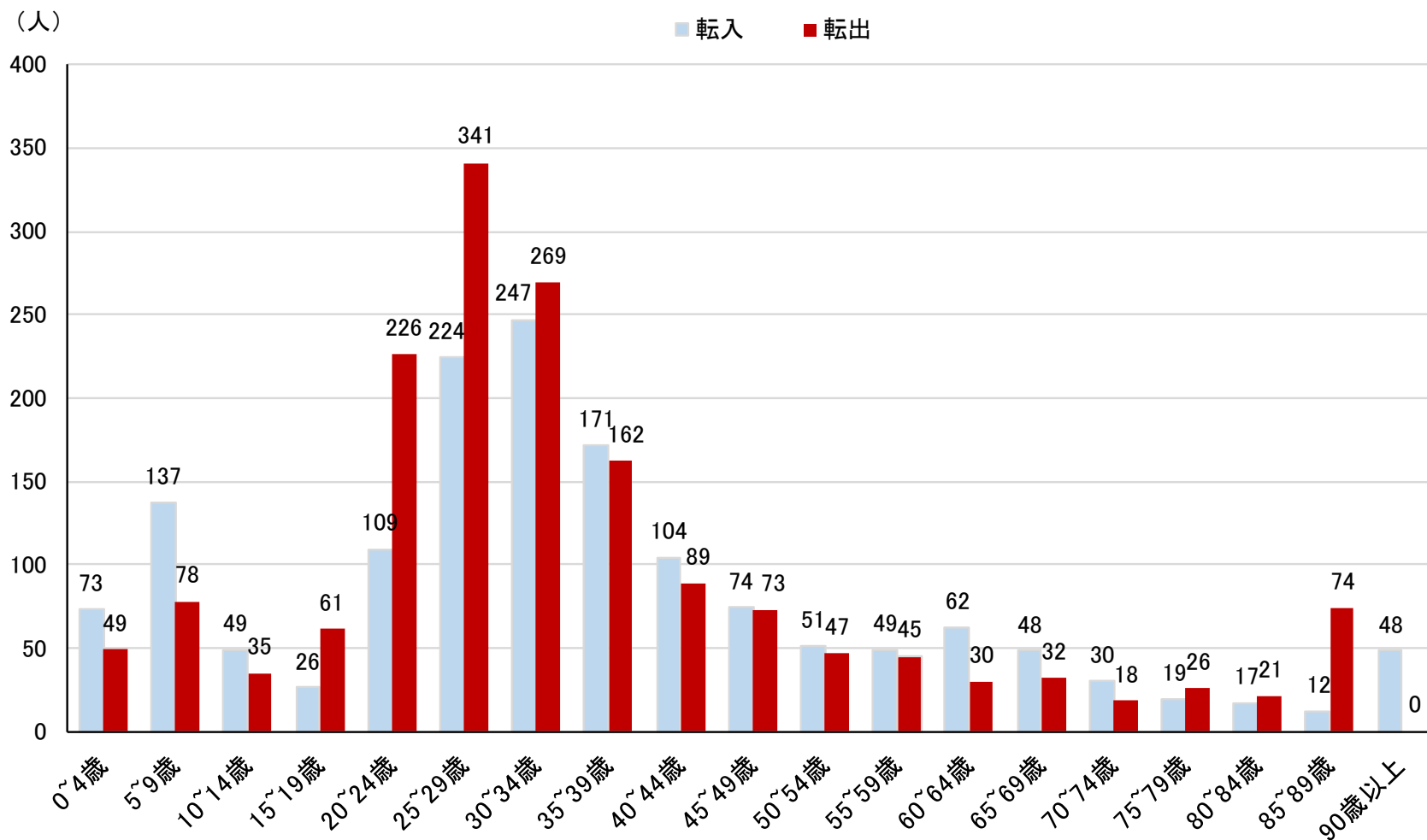


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」2018年



## ■年代別転入・転出数★

年代別に転入・転出者数を見ると、転入者は5～9歳または20代後半から30代前半が多く、子育て世代が転入していると考えられます。一方で、転出者は、20代後半から30代前半が最も多く、次いで20代前半が多くなっています。



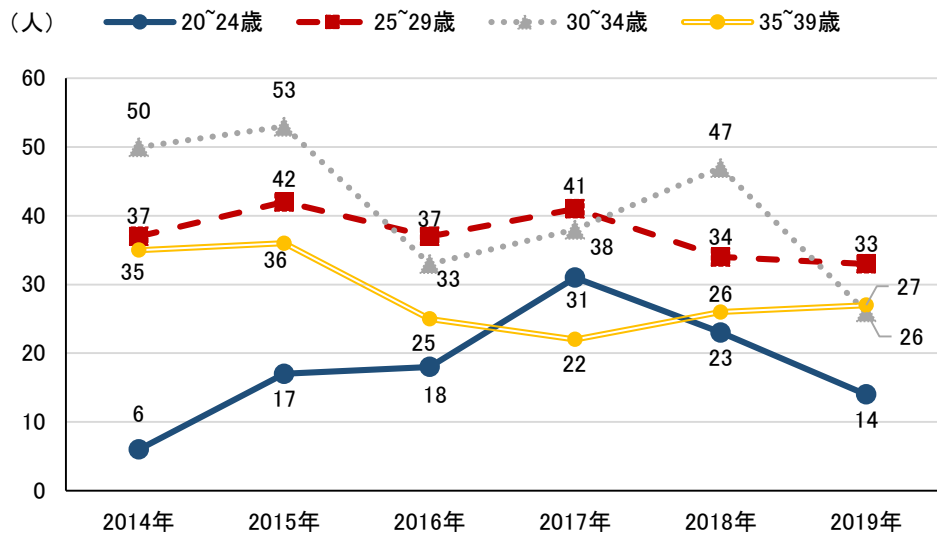
出典: 佐久穂町「住民基本台帳」2014年～2018年の合計



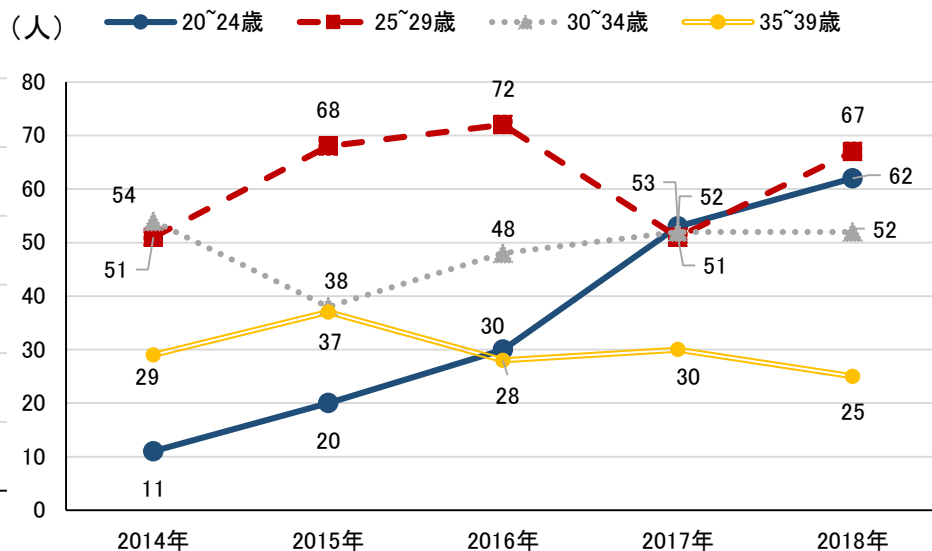


20代から30代の転入者数、転出者数の推移をみると、転入では増加や減少の傾向ははっきりと見られないものの、転出では20代前半の転出数が増加しており、20代前半の転出超過が加速していると考えられます。

### ■20代～30代の転入数の推移



### ■20代～30代の転出数の推移★

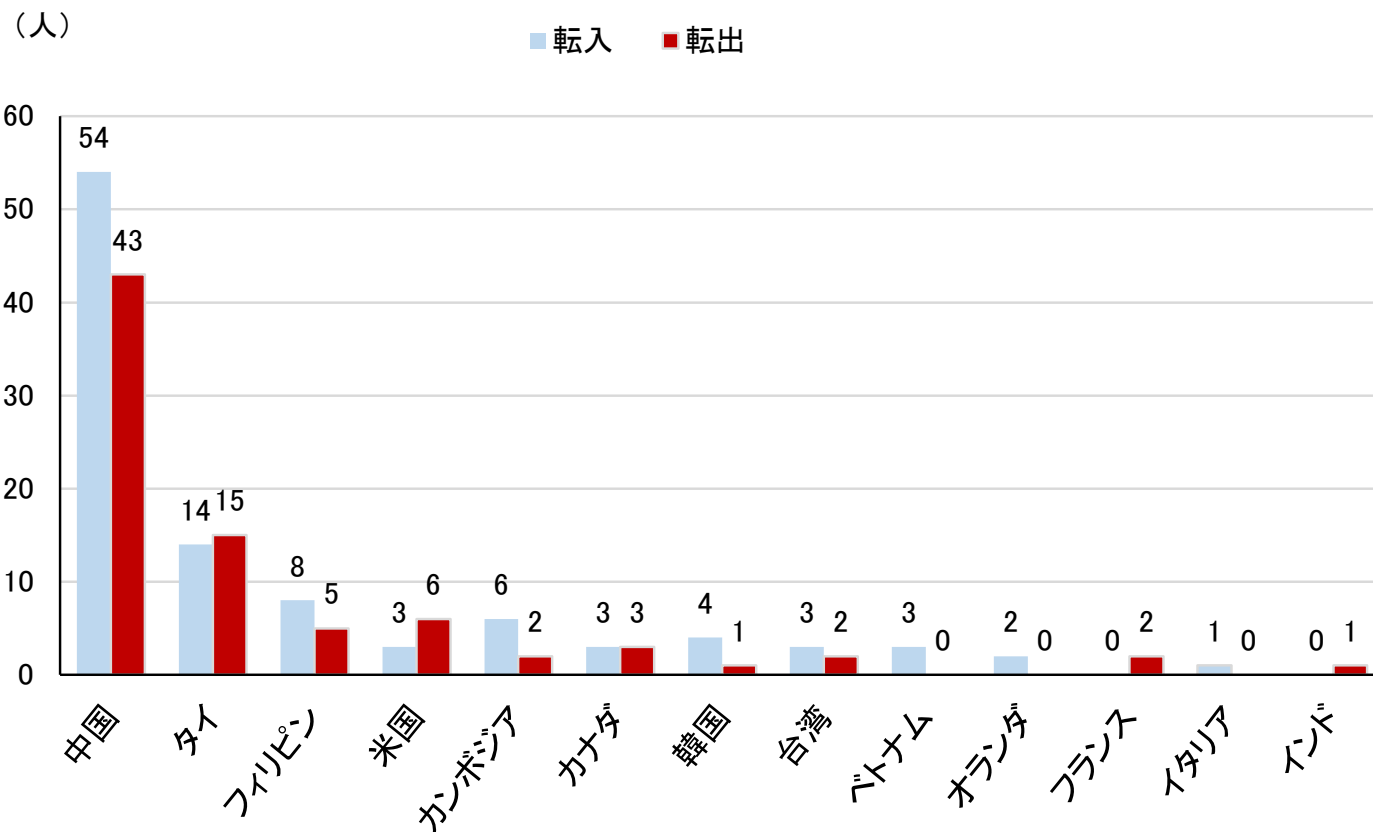


出典: 佐久穂町「住民基本台帳」



## ■ 国籍別転入・転出者数

国籍別に外国籍住民の転入・転出者数をみると、中国国籍の住民が最も多く、次いでタイ・フィリピンが多くなっています。転入超過となっている国が多く、町内の外国籍の住民は増加傾向にあることが伺えます。



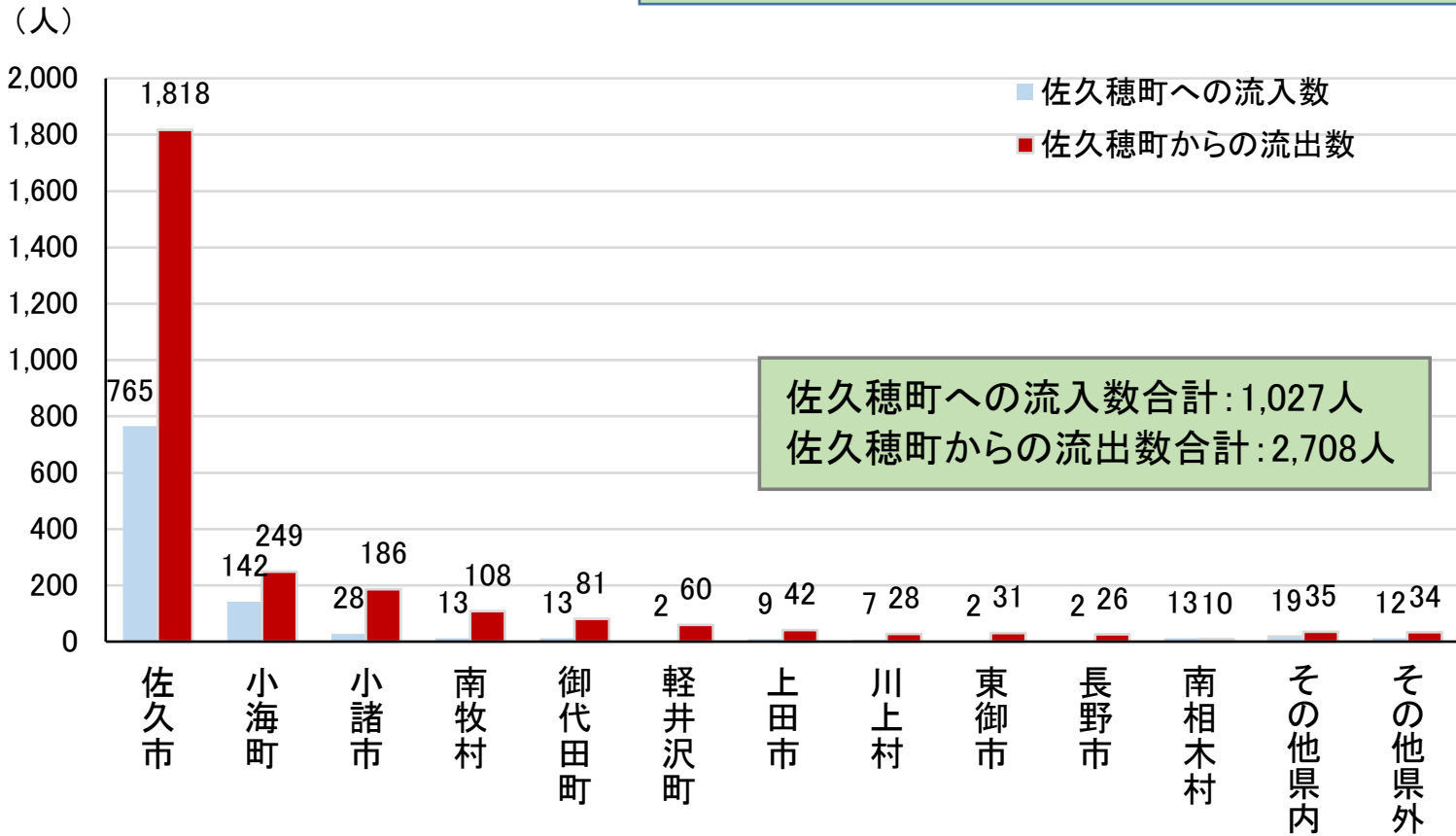
出典：佐久穂町「住民基本台帳」2014年～2018年の合計



# (4) 通勤の分析

## ■通勤による流入・流出の状況

佐久穂町への通勤による流入数は1,027人であるのに対して、佐久穂町からの通勤による流出数は2,708人に上り、大幅に流出超過となっています。特に佐久市との間で流出超過が大きく、佐久市のベッドタウンとなっている様子が伺えます。



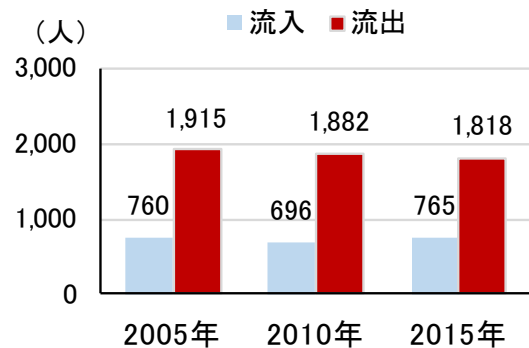
出典: 総務省「国勢調査」2015年



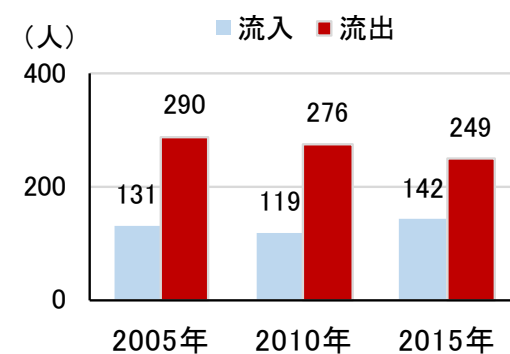
## ■主な通勤先との間の流入・流出の推移

主な通勤先について経年でみると、佐久市・小海町への流出は減少傾向にある一方で、流入は微増しています。

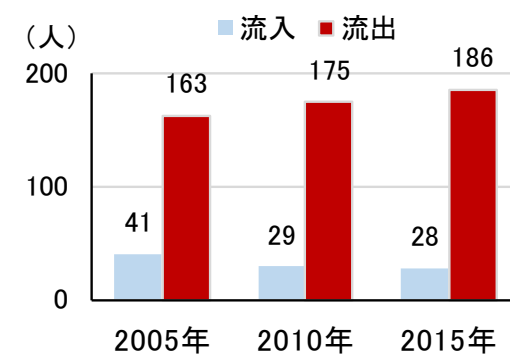
### 佐久市



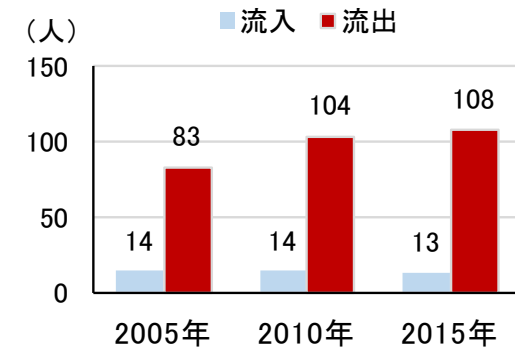
### 小海町



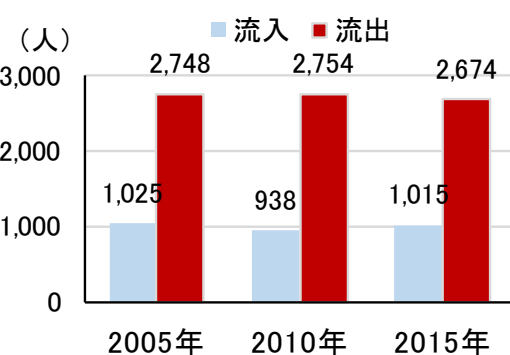
### 小諸市



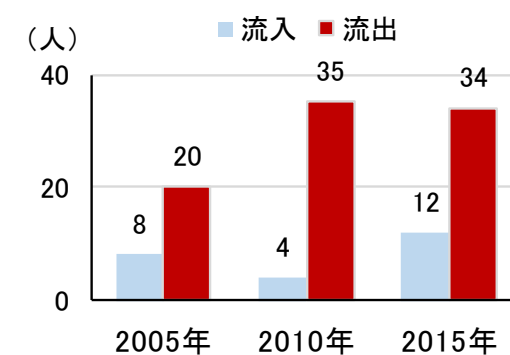
### 南牧村



### 県内



### 県外



出典:総務省「国勢調査」

# (5) 地区別人口の分析



## ■ 佐久穂町の地区別人口増減率と高齢化率

平成27年から平成31年の人口増減率と、平成31年の高齢化率を、集落別にプロットすると、集落によって状態に差がある様子が伺えます。

### 凡例

#### ■ 高齢化・人口減少が特に激しい集落

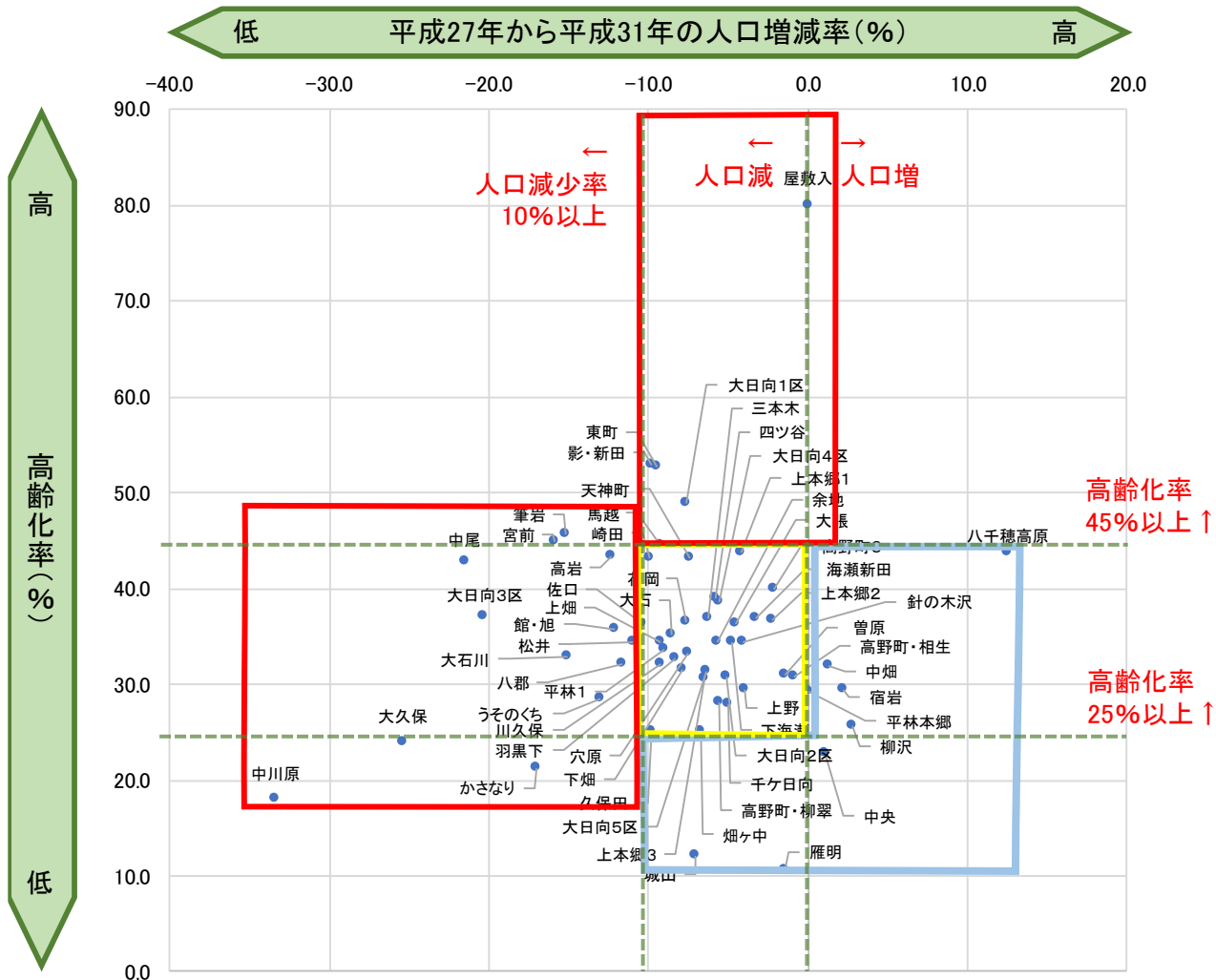
高齢化率45%以上、または平成27年4月7日から平成31年4月の人口減少率10%以上の集落

#### ■ 注意の必要な集落

高齢化率25%以上45%未満、かつ平成27年4月7日から平成31年4月の人口減少率0%以上10%未満の集落

#### ■ 状態のよい集落

高齢化率25%以下かつ人口減少率10%未満、または平成27年4月7日から平成31年4月に人口が増加している集落

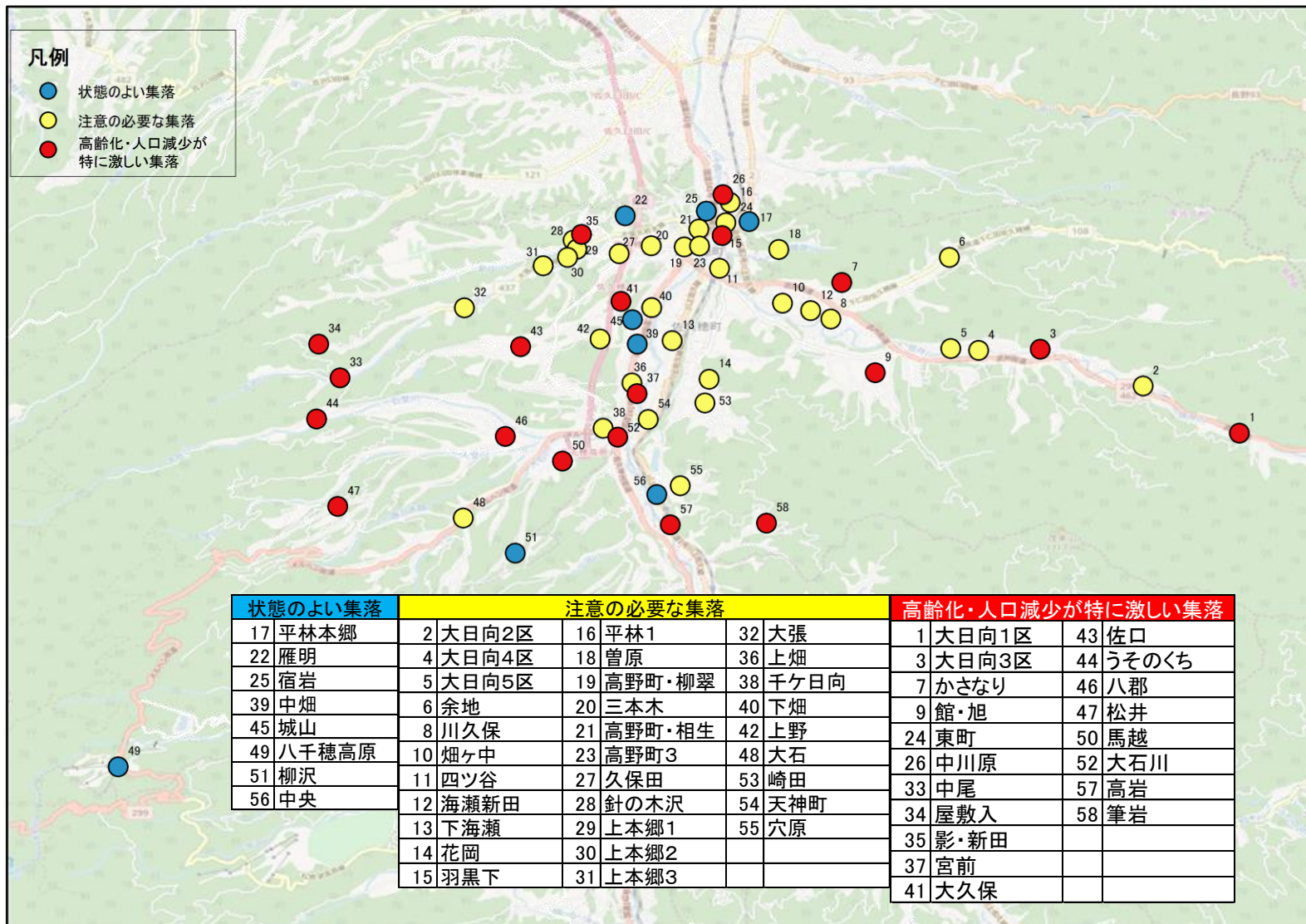


出典：佐久穂町「住民基本台帳」2015年、2019年



## ■佐久穂町の地区別人口状態

おおむね町の中心部から遠ざかるほど、人口減少率、高齢化率が高くなっています。

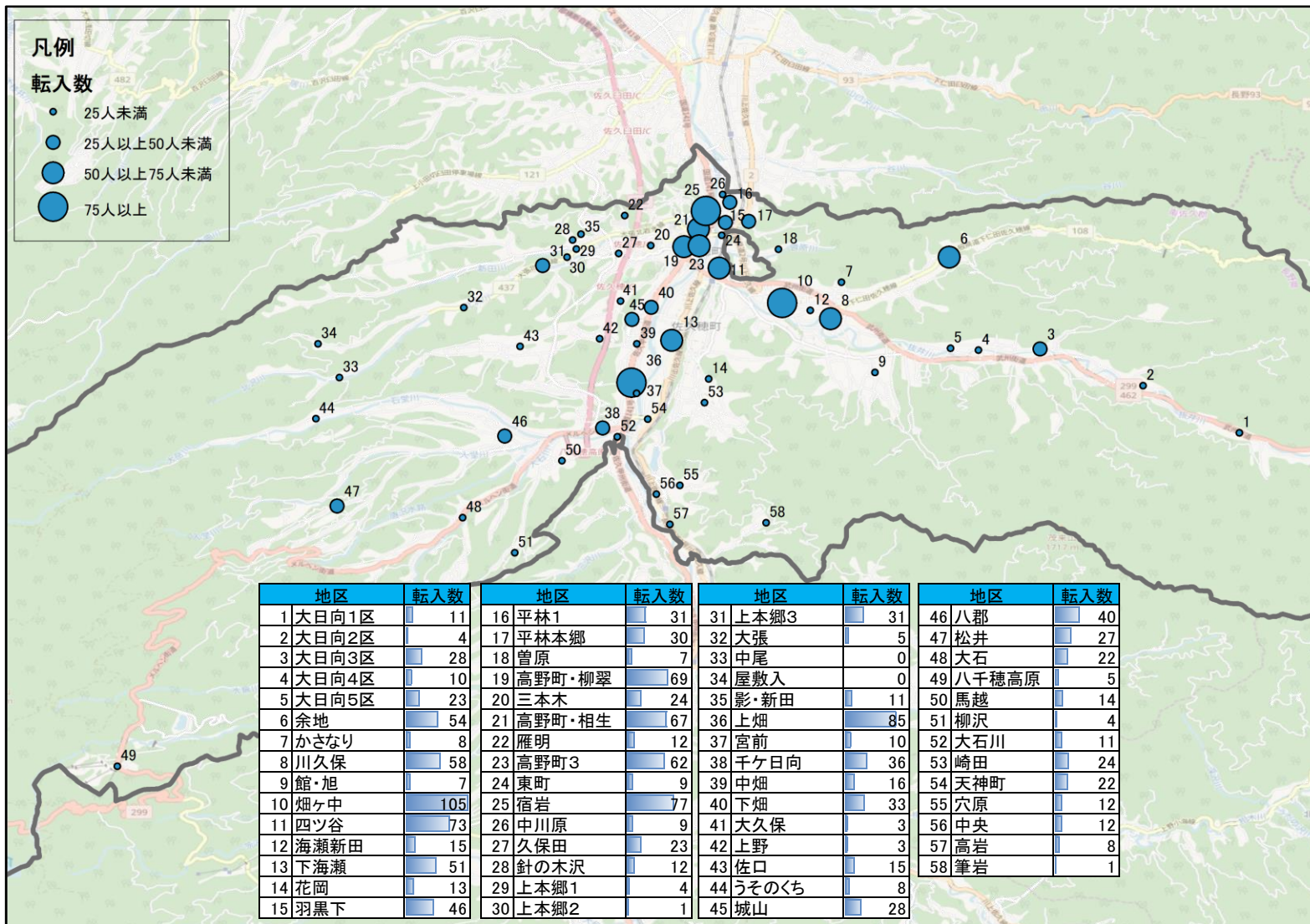






## ■佐久穂町の地区別転入数

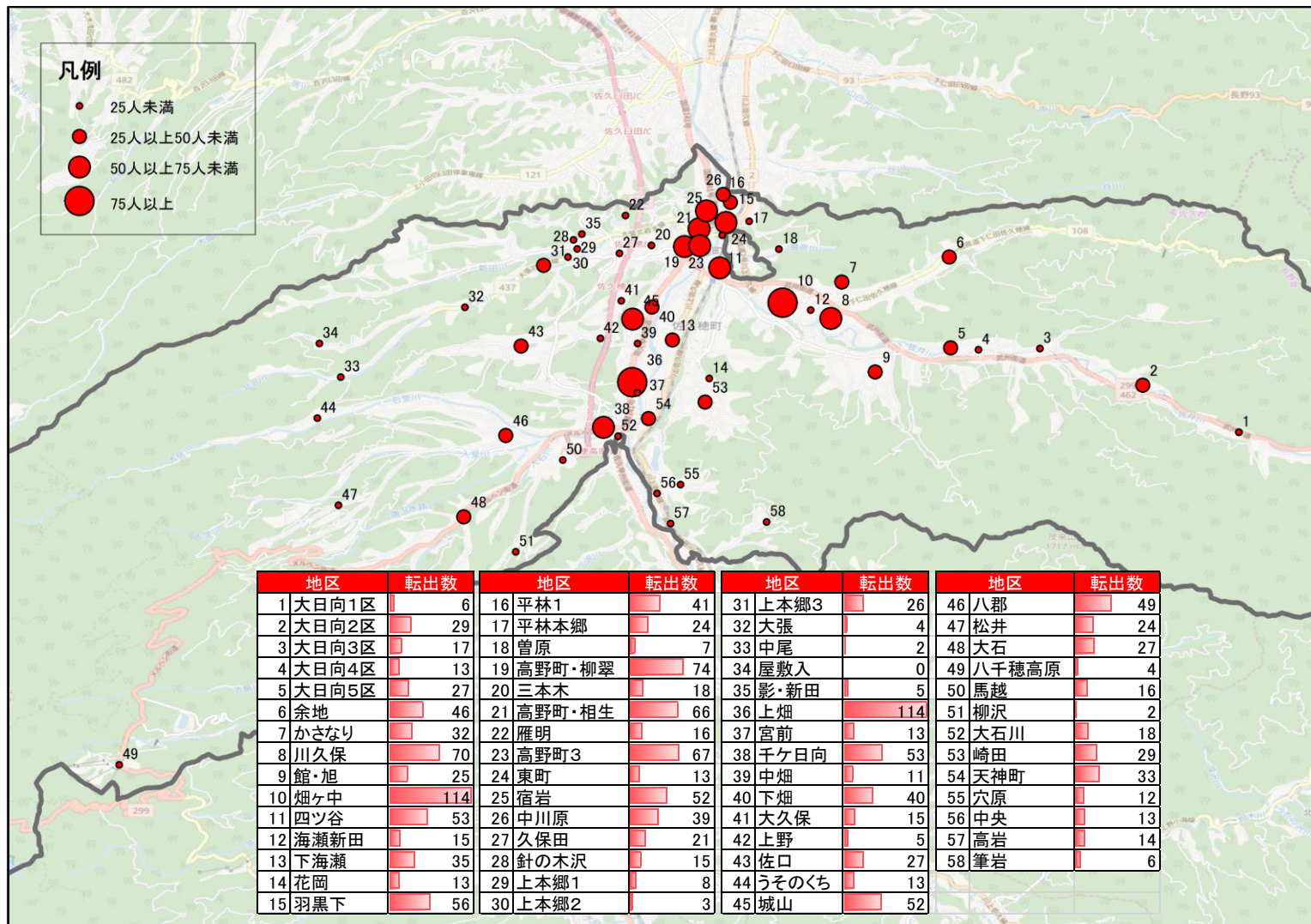
転入数は規模の大きい町中心部の地区に集中している様子が伺えます。





## ■佐久穂町の地区別転出数

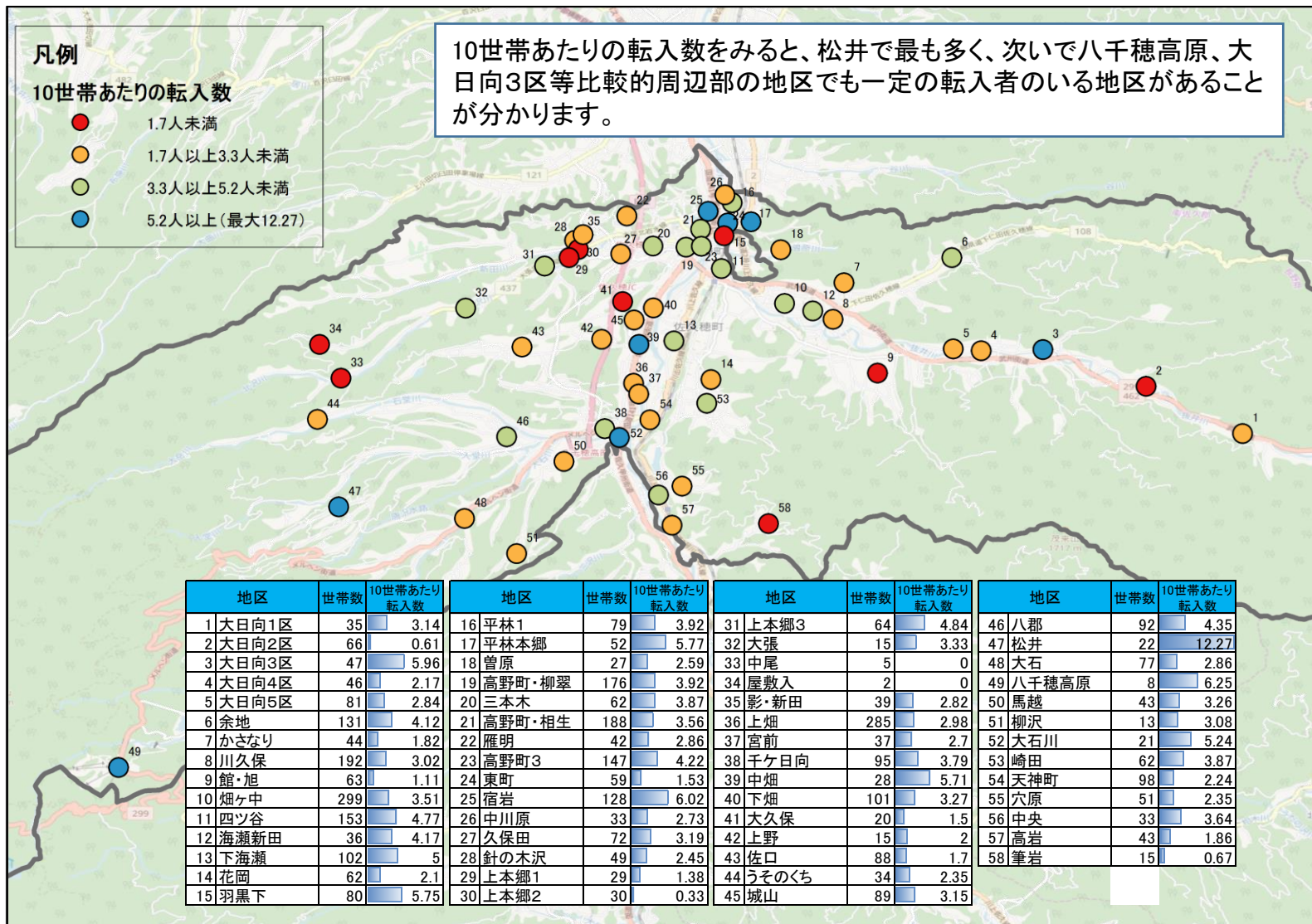
転出数も規模の大きい町中心部の地区に集中している様子が伺えます。





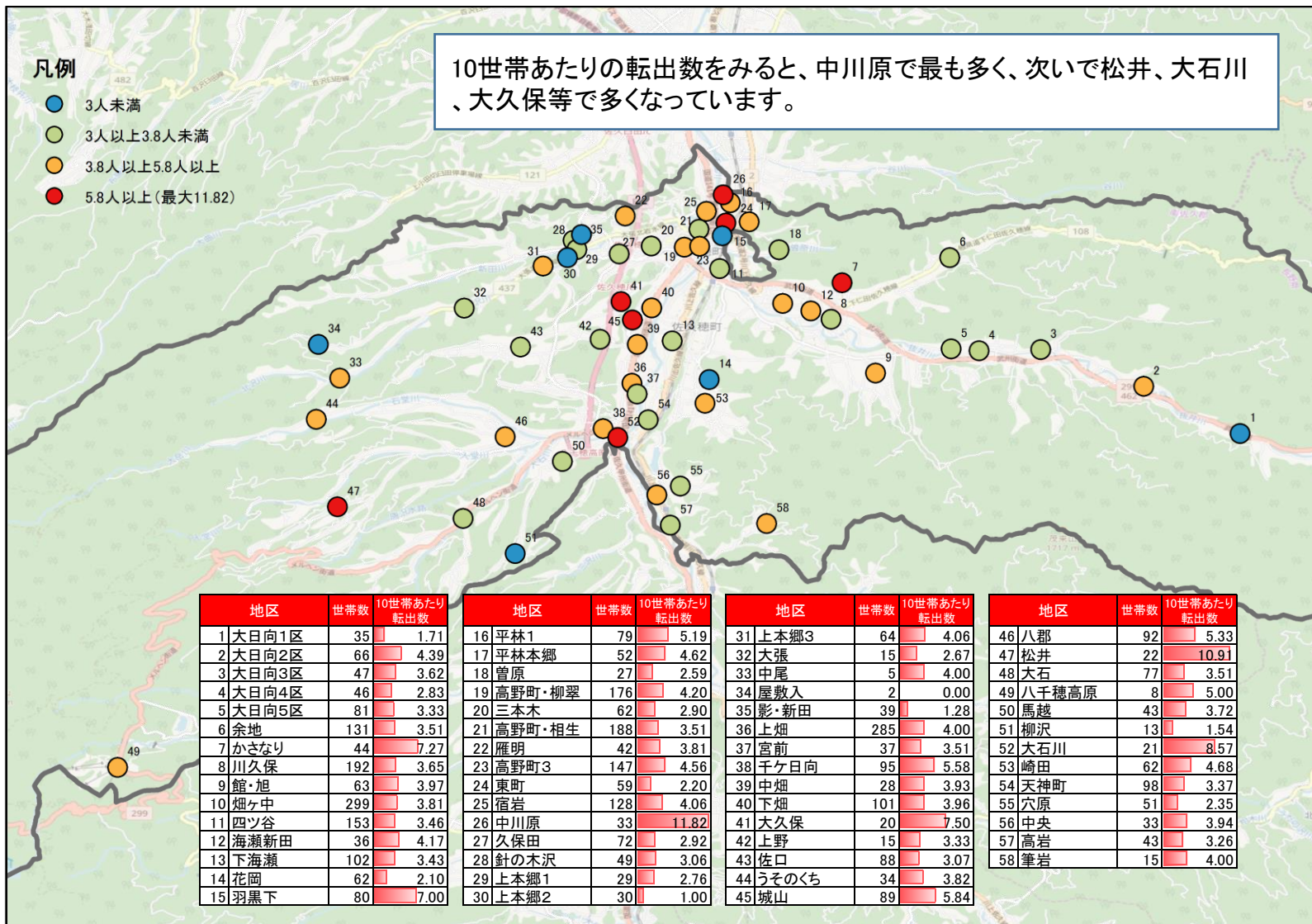


## ■佐久穂町の地区別10世帯あたりの転入数





## ■佐久穂町の地区別10世帯あたりの転出数





## ■佐久穂町の地区別10世帯あたりの転入超過数の状況★

地区名	世帯数	10世帯あたりの 転入超過数
1 大日向1区	35	1.43
3 大日向3区	47	2.34
6 余地	131	0.61
11 四ツ谷	153	1.31
12 海瀬新田	36	0.00
13 下海瀬	102	1.57
14 花岡	62	0.00
17 平林本郷	52	1.15
18 曾原	27	0.00
20 三本木	62	0.97
21 高野町・相生	188	0.05

地区名	世帯数	10世帯あたりの 転入超過数
25 宿岩	128	1.95
27 久保田	72	0.28
31 上本郷3	64	0.78
32 大張	15	0.67
34 屋敷入	2	0.00
35 影・新田	39	1.54
39 中畑	28	1.79
47 松井	22	1.36
49 八千穂高原	8	1.25
51 柳沢	13	1.54
55 穴原	51	0.00

10世帯あたりの転入超過をみると、大日向3区が最も多く、次いで宿岩、中畑が多くなっています。10世帯あたりの転出超過数をみると、中川原が最も多く、次いで大久保、かさなり、大日向2区が多くなっています。

## ■佐久穂町の地区別10世帯あたりの転出超過数の状況★

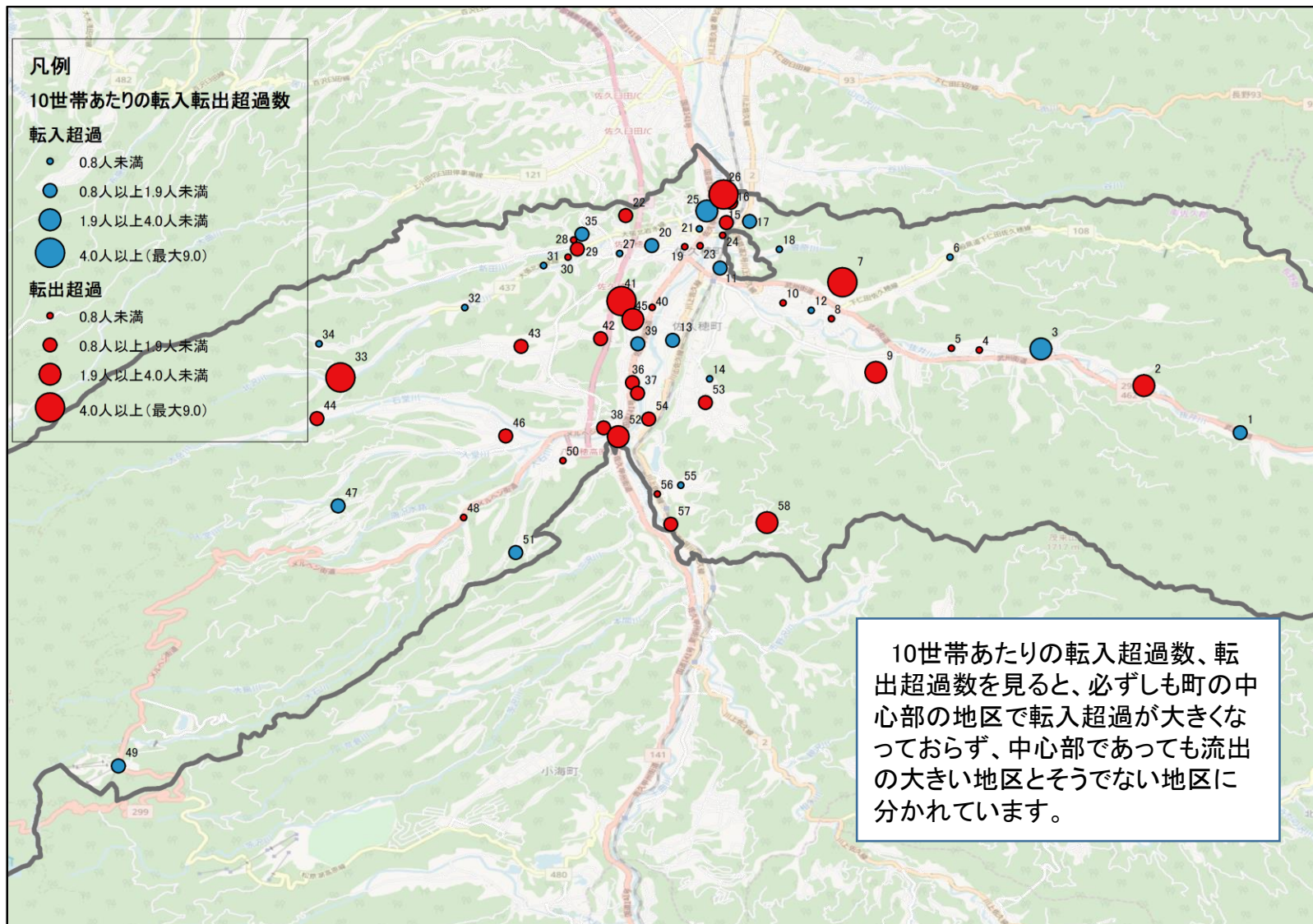
地区名	世帯数	10世帯あたりの 転出超過数
2 大日向2区	66	3.79
4 大日向4区	46	0.65
5 大日向5区	81	0.49
7 かさなり	44	5.45
8 川久保	192	0.63
9 館・旭	63	2.86
10 畑ヶ中	299	0.30
15 羽黒下	80	1.25
16 平林1	79	1.27
19 高野町・柳翠	176	0.28
22 雁明	42	0.95
23 高野町3	147	0.34

地区名	世帯数	10世帯あたりの 転出超過数
24 東町	59	0.68
26 中川原	33	9.09
28 針の木沢	49	0.61
29 上本郷1	29	1.38
30 上本郷2	30	0.67
33 中尾	5	4.00
36 上畑	285	1.02
37 宮前	37	0.81
38 千ヶ日向	95	1.79
40 下畑	101	0.69
41 大久保	20	6.00
42 上野	15	1.33

地区名	世帯数	10世帯あたりの 転出超過数
43 佐口	88	1.36
44 うそのくち	34	1.47
45 城山	89	2.70
46 八郡	92	0.98
48 大石	77	0.65
50 馬越	43	0.47
52 大石川	21	3.33
53 崎田	62	0.81
54 天神町	98	1.12
56 中央	33	0.30
57 高岩	43	1.40
58 筆岩	15	3.33



## ■佐久穂町の地区別10世帯あたりの転入超過・転出超過の状況★





# (7) 転入者・転出者に対するアンケート結果の分析

## ■回収数

転入者に対するアンケート:114票  
転出者に対するアンケート:98票

## ■回収期間

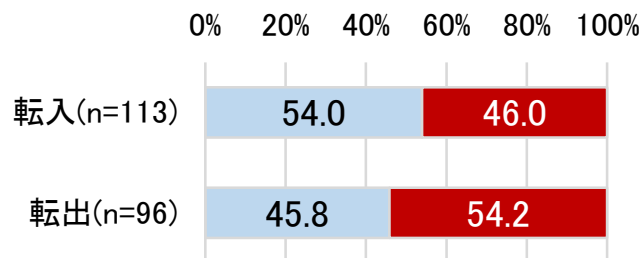
2018年5月～2019年5月

## ■設問内容

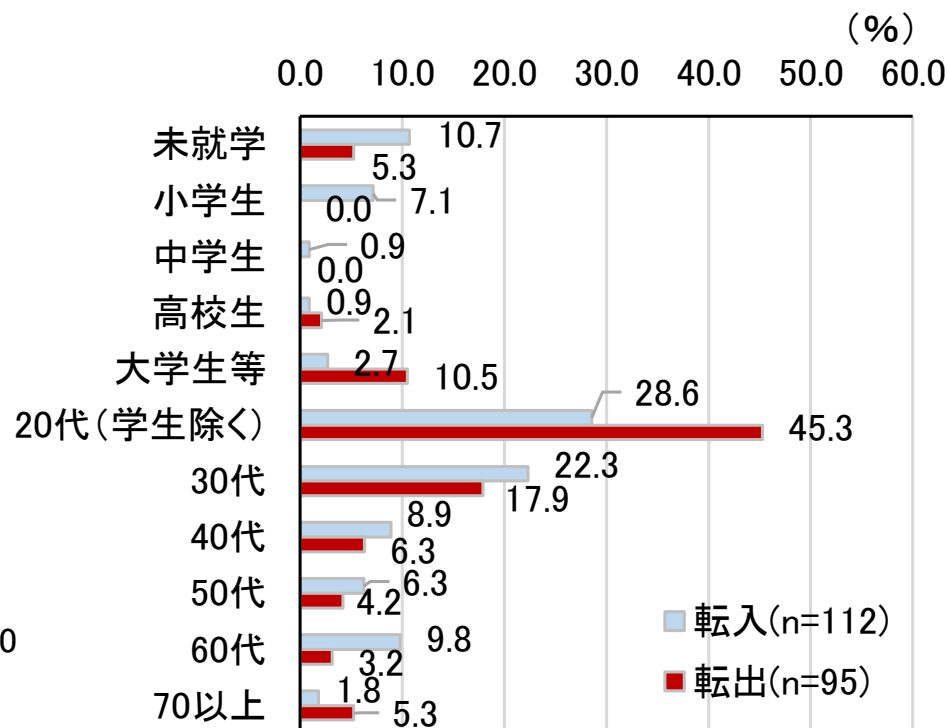
性別、年代、世帯、出身地、転入元・転出先、転入理由・転出理由

## ■性別

■男 ■女

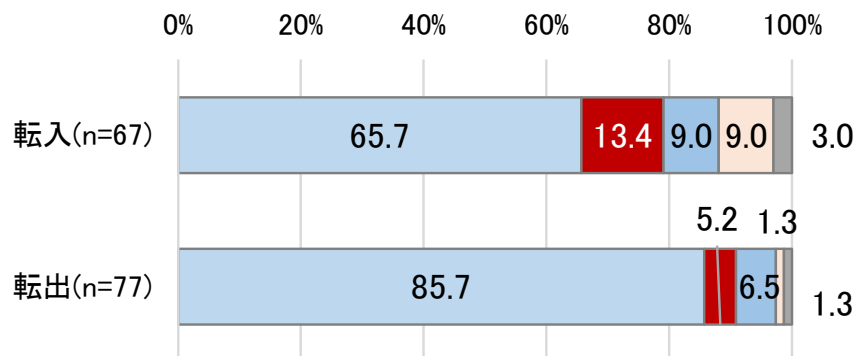


## ■年代



## ■世帯の人数

■1人 ■2人 ■3人 ■4人 ■5人



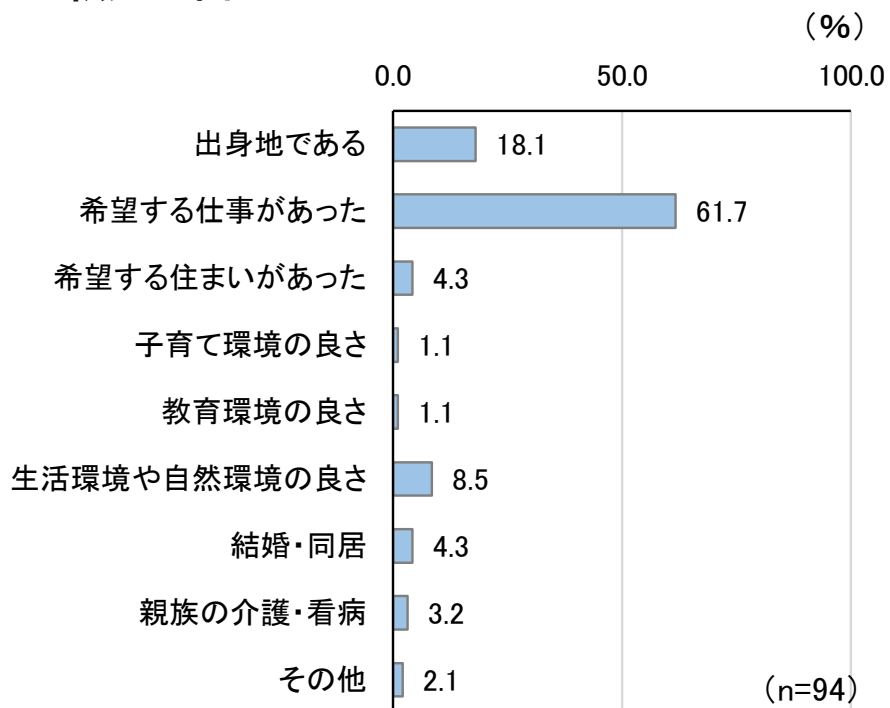
出典:佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



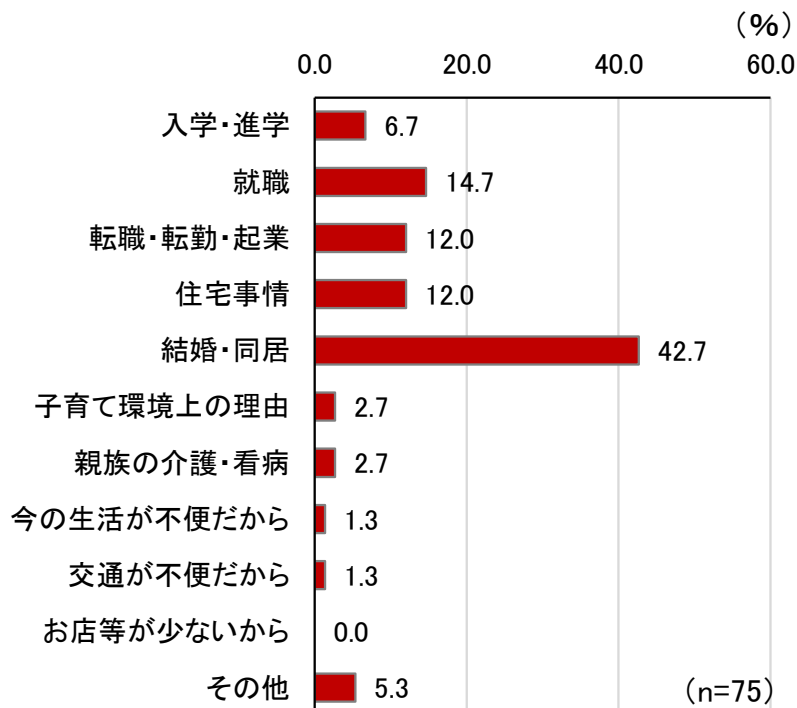
転入の理由としては、「希望する仕事があった」が最も多く、回答者の6割がこの理由を回答おり、次いで「出身地である」が2割を占めています。

転出の理由としては、「結婚・同居」が最も多く、回答者の4割がこの理由を回答しており、次いで「就職」「転職・転勤・起業」「住宅事情」が多くなっています。

## ■転入理由★



## ■転出理由★



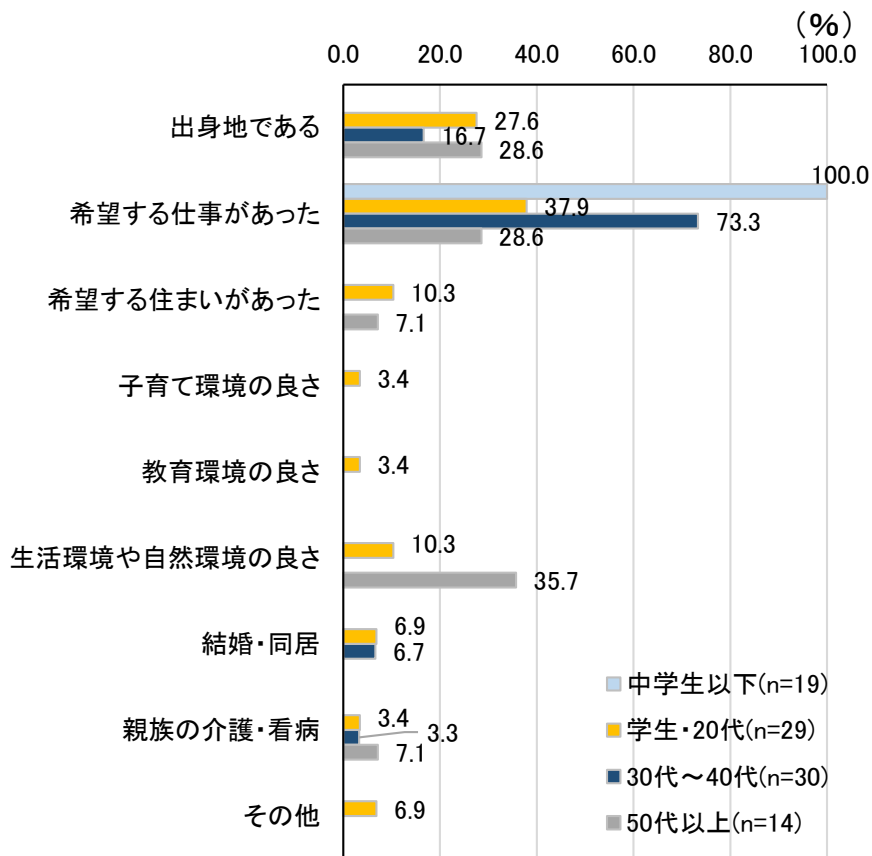
出典:佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



年代別の転入の理由としては、30代～40代で「希望する仕事があった」を理由とする転入が多くなっている一方で、50代以上では「生活環境や自然環境の良さ」を理由とする転入が多くなっています。

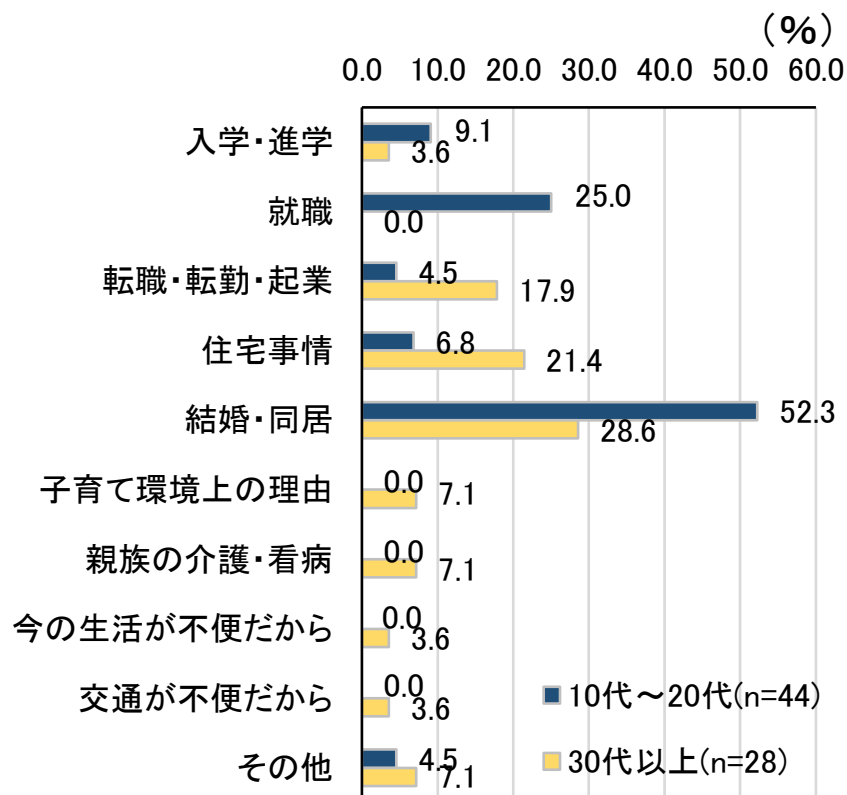
年代別の転出の理由としては、特に20代での「結婚・同居」を理由とする転出が最も多く、次いで「就職」が多くなっています。また、30代以上でも「結婚・同居」が多く、次いで「住宅事情」や「転職・転勤・起業」が多くなっています。

## ■年代別転入理由★



※中学生以下は親の転入理由

## ■年代別転出理由★

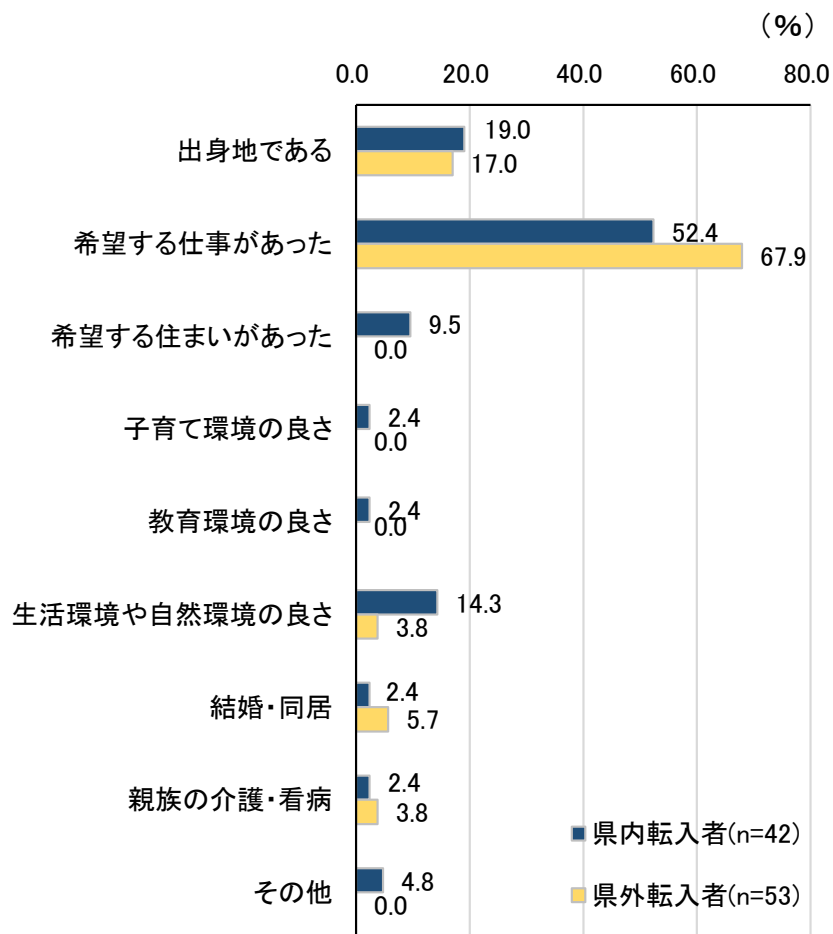


出典: 佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」

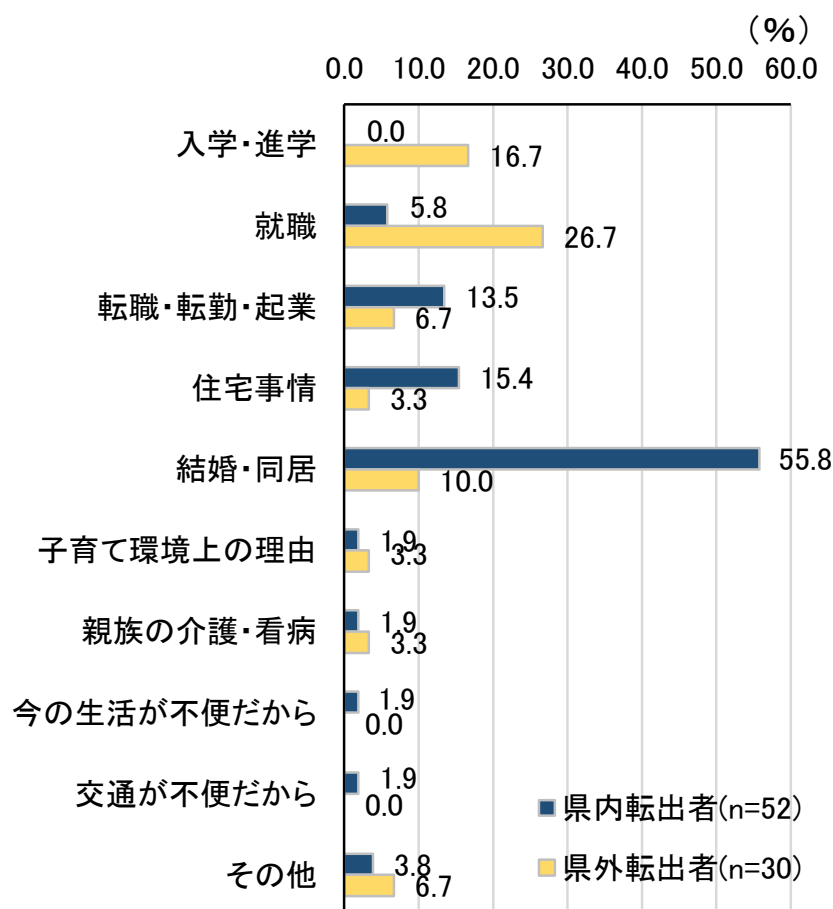


転入元別の転入理由としては、県外からの転出者の方が「希望する仕事があった」を理由とする人の割合が高くなっています。転出先別の転出理由としては、県内への転出者の方が、「結婚・同居」を理由とする転出が多くなっています。県外への転出は、「就職」や「入学・進学」が多くなっています。

## ■転入元別転入理由★



## ■転出先別転出理由★



出典：佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



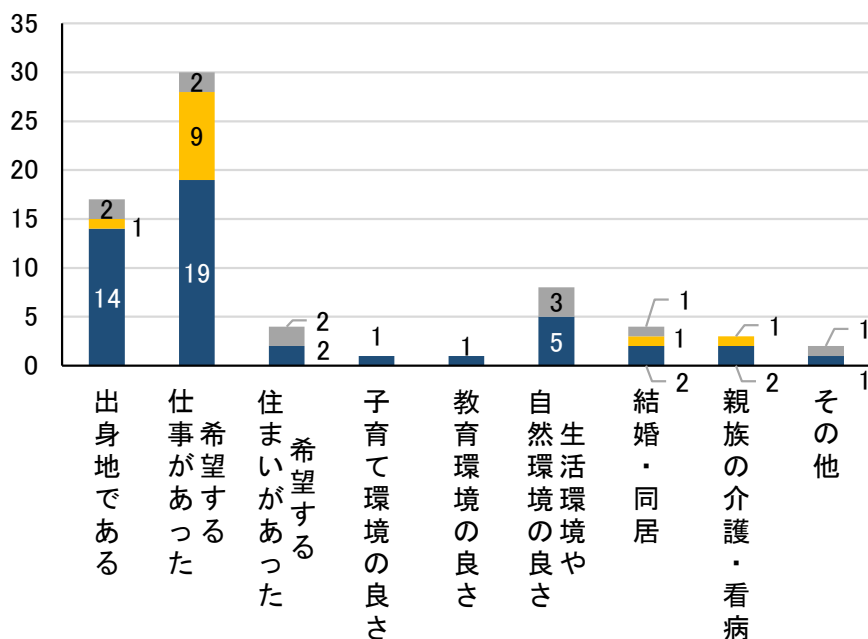


世帯単位で転入の理由をみると、ほとんどが単身世帯となっていますが、子育て世帯の転入は、「希望する仕事があった」が多くなっています。また、世帯単位で転出の理由をみると、ほとんどが単身世帯となっていますが、子育て世帯の転出は「住宅事情」によるものが多くなっています。

## ■世帯の種類別転入理由

■単身世帯 ■高校生以下の子どものいる世帯 ■それ以外の世帯

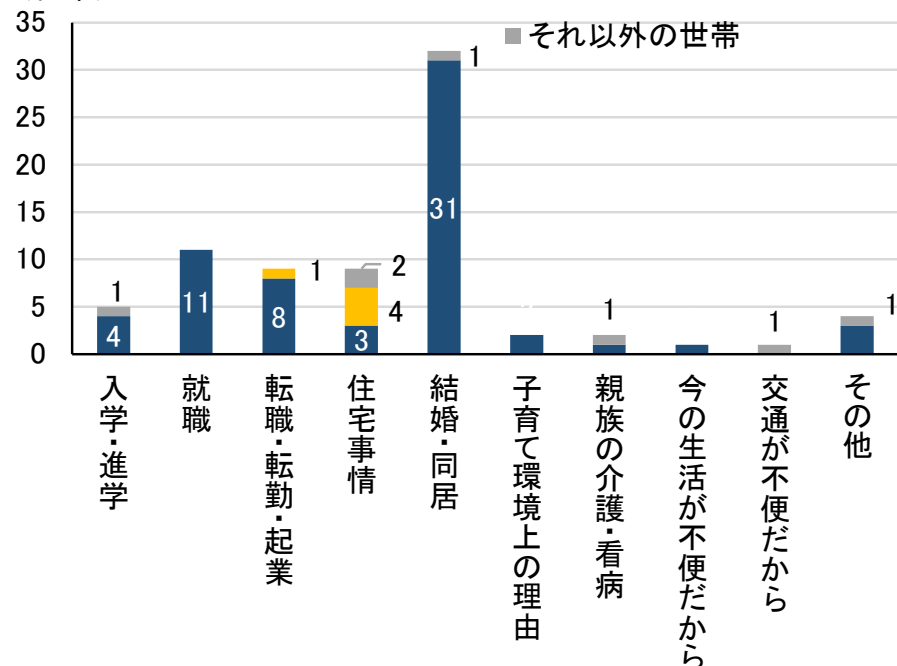
(世帯)



## ■世帯の種類別転出理由

■単身世帯 ■高校生以下の子どものいる世帯 ■それ以外の世帯

(世帯)



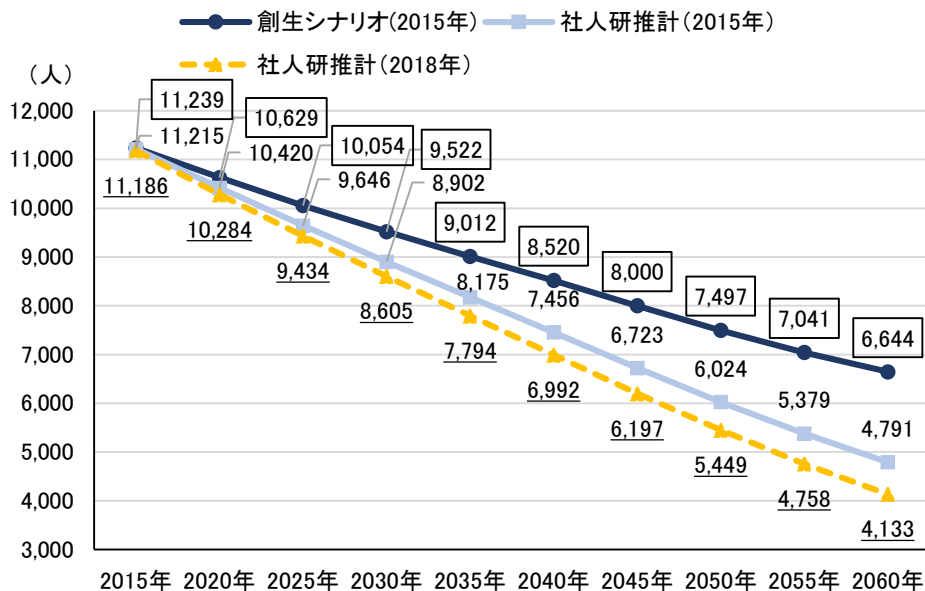
出典:佐久穂町「転入者・転出者窓口アンケート」



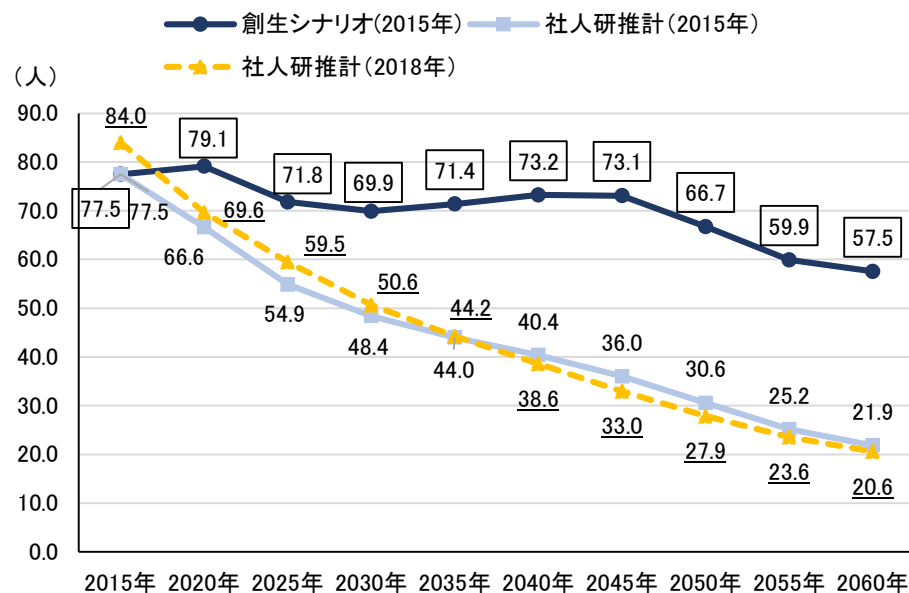
## ◆全体の目標人口(創生シナリオ)

第1期戦略に引き続き、「2045年に小学校入学時1学年2クラス(70人)を維持できる人口」を目標とし、2045年時点で8,000人の人口の確保を目指します。しかしながら、2018年時点の将来人口推計を見ると、目標人口(創生シナリオ)と推計値との乖離はさらに拡大しており、6歳時点の人口についても同様に目標人口との乖離は縮小していません。社人研の仮定する移動率の推計がより厳しいものになっていることが一因です。今後目標値に達するためには、自然動態・社会動態においてより高い値を実現する必要があります。

創生シナリオと社人研推計の比較(総人口)



創生シナリオと社人研推計の比較(6歳人口)



## ◆創生シナリオにおける仮定

内容	2045年推計人口(人)	合計特殊出生率	転入-転出 2015~2045年の平均 (2015~2020年の平均)
<b>【創生シナリオ】</b> (社人研推計+出生率上昇+社会増減を考慮) ☆2045年に小学校入学時 1学年2クラス(70人)を維持	8,000	<b>【町民希望出生率まで上昇】</b> 2040年から1.96 (それまで一定割合で上昇)	約-6人/年 (約-9人/年)

※社人研推計(2018年)の2015年の値のみ実績値であり、そのほかは推計値または目標値  
 ※6歳人口は5~9歳人口の按分によって算出  
 ※出典: 創生シナリオ 佐久穂町人口ビジョン(2015年)  
 社人研推計 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』に準拠して算出